

(様式第10)

阪医病総第6号
平成29年1月2日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人大阪大学
学長 西尾 章治郎

大阪大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、平成28年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番1号
氏 名	国立大学法人大阪大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

大阪大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2番15号	電話 (06) 6879-5111
--------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> ①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
②医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科
⑤神経内科	⑥血液内科	⑦内分泌内科
⑨感染症内科	⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑪リウマチ科

診療実績

アレルギー疾患リウマチ科、糖尿病・内分泌・代謝内科、血液・腫瘍内科

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有・無		
外科と組み合わせた診療科名			
1呼吸器外科 5血管外科	2消化器外科 6心臓血管外科	3乳腺外科 7内分泌外科	4心臓外科 8小児外科
診療実績 乳腺・内分泌外科			

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科 8産科 14放射線治療科	2小児科 9婦人科 15麻酔科	3整形外科 10眼科 16救急科	4脳神経外科 11耳鼻咽喉科	5皮膚科 12放射線科	6泌尿器科 13放射線診断科	7産婦人科
-------------------------	-----------------------	------------------------	-------------------	----------------	-------------------	-------

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有・無		
歯科と組み合わせた診療科名			
1小児歯科	2矯正歯科	3口腔外科	
歯科の診療体制			

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1老年内科 8 15	2漢方内科 9 16	3病理診断科 10 17	4形成外科 11 18	5リハビリテーション科 12 19	6神経・精神科 13 20	7 14 21
------------------	------------------	--------------------	-------------------	-------------------------	---------------------	---------------

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
52床	床	床	床	1,034床	1,086床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	464人	674人	878.7人	看護補助者	81人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	1人	20人	1.3人	理学療法士	15人	臨床検査技師	1人
薬剤師	86人	1人	86.7人	作業療法士	5人	衛生検査技師	86人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	16人	その他	0人
助産師	36人	0人	36.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	984人	25人	1002.7人	臨床工学士	36人	医療社会事業従事者	11人
准看護師	1人	1人	1.7人	栄養士	0人	その他の技術員	15人
歯科衛生士	0人	3人	2.2人	歯科技工士	0人	事務職員	267人
管理栄養士	10人	0人	10.0人	診療放射線技師	66人	その他の職員	51人

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	63人	眼科専門医	23人
外科専門医	110人	耳鼻咽喉科専門医	13人
精神科専門医	14人	放射線科専門医	29人
小児科専門医	34人	脳神経外科専門医	20人
皮膚科専門医	12人	整形外科専門医	30人
泌尿器科専門医	20人	麻酔科専門医	26人
産婦人科専門医	27人	救急科専門医	16人
		合 計	437人

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名(野口 真三郎) 任命年月日 平成28年4月1日

平成19年12月～現在 大阪大学医学部附属病院統括医療安全管理委員会委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	852.8人	0人	852.8人
1日当たり平均外来患者数	2375.5人	17.1人	2392.5人
1日当たり平均調剤数			1621.1 剤
必要医師数			226人
必要歯科医師数			1人
必要薬剤師数			29人
必要(准)看護師数			508人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を曆日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ曆日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要		
			病床数	心電計	(有)・無
集中治療室	595.46m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	病床数 29床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置 (有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救命装置 (有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 363.88m ² [移動式の場合]	床面積 台数	病床数	31床	
			台		
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 55m ² [共用室の場合]	共用する室名			
化学検査室	643m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 検査台、遠心分離機、自動分析装置		
細菌検査室	135m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 検査台、顕微鏡、恒温器、安全キャビネット		
病理検査室	305m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 検査台、顕微鏡、ドラフトチャンバー		
病理解剖室	65m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、保管庫、冷蔵庫		
研究室	12,392m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン等OA機器、実験台、保管庫		
講義室	1,187m ²	鉄筋コンクリート	室数 7室	収容定員 953人	
図書室	4,041m ²	鉄筋コンクリート	室数 -室	蔵書数 339,000冊程度	

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	92.2%	逆紹介率	70.3%
算 A : 紹介患者の数			19,416人
出 B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			15,154人
根 C : 救急用自動車によって搬入された患者の数			475人
拠 D : 初診の患者の数			21,570人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
倉智 博久	大阪府立母子保健総合医療センター	○	大阪府立母子保健総合医療センターにおいて、総長として医療側・経営側の両知識を有する者として選定するもの	有・無	1
中村 京太	横浜市立大学附属市民総合医療センター		横浜市立大学附属市民総合医療センターにおいて、医療安全管理学の准教授として、医療安全管理の専門家として選定するもの	有・無	1
水島 幸子	水島綜合法律事務所		水島綜合法律事務所において、法律の専門家である上、医療に精通している者として選定するもの	有・無	1
山口 育子	認定NPO法人ささえあい医療人権センター COML		認定NPO法人ささえあい医療人権センター COMLにおいて、患者・医療者双方のコミュニケーション能力を高める活動等に取り組んでおり、患者目線で医療について助言できる者として選定するもの	有・無	2
鬼澤 佳弘	国立大学法人 大阪大学		本学における、リスク管理担当理事として選定するもの	有・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
公表の方法	
大阪大学ホームページにて公表	
掲載 URL :	<u>http://www.osaka-u.ac.jp/ja/academics/univ_hospitals/tokutei</u>

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
前眼部三次元画像解析	0人
腹腔鏡下広汎子宮全摘術	9人
角膜ジストロフィーの遺伝子解析	11人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病に対する脳死ドナー又は心停止ドナーからの臍島移植 重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病	0人
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチニン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	0人
経カテーテル大動脈弁植込み術 弁尖の硬化変性に起因する重度大動脈弁狭窄症(慢性維持透析を行っている患者に係るものに限る。)	0人
ペベルミノデンペルプラスミドによる血管新生療法 閉塞性動脈硬化症又はビュルガー病(血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	0人
上肢カッティングガイド及び上肢カスタムメイドプレートを用いた上肢骨変形矯正術 骨端線障害若しくは先天奇形に起因する上肢骨(長管骨に限る。以下この号において同じ。)の変形又は上肢骨の変形治癒骨折(一上肢に二以上のFDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断 不明熱(画像検査、血液検査及び尿検査により診断が困難なものに限る。)	3人
コラーゲン半月板補填材を用いた半月板修復療法 半月板損傷(関節鏡検査により半月板の欠損を有すると診断された患者に係るものに限る。)	2人
周術期力ルペリチド静脈内投与による再発抑制療法 非小細胞肺がん(CT撮影により非浸潤がんと診断されたものを除く。)	17人
11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による再発の診断 頭頸部腫瘍(原発性若しくは転移性脳腫瘍(放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。)又は上咽頭、頭蓋骨その他脳に近接する内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術 根治切除が可能な胃がん(ステージⅠまたはⅡであって、内視鏡による検査の所見で内視鏡的胃粘膜切除術の対象とならないと判断されたものに限る。)	6人
自家嗅粘膜移植による脊髄再生治療 胸椎損傷(損傷後十二月以上経過してもなお下肢が完全な運動麻痺(米国脊髄損傷学会によるAISがAである患者に係るものに限る。)を呈するものに限る。)	1人
リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法 特発性ネフローゼ症候群(当該疾病的症状が発症した発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、難治性頻回再発放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法 初発の中枢神経系原発悪性リンパ腫(病理学見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫)	2人
11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による診断 初発の神経膠腫が疑われるもの(生検又は手術が予定されている患者に係るものに限る。)	2人
経胎盤的抗不整脈薬投与療法 胎児頻脈性不整脈(胎児の心拍数が毎分百八十以上で持続する心房粗動又は上室性頻拍に限る。)	0人
術前のS-1内服投与、シスプラチニン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法 切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	0人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示

第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腸管延長術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
小児腸管不全患者、特に短腸症の患者に対して腸管延長術を高度な医療として行っている。腸管延長により在宅高カロリー輸液への依存度が低下でき、小腸移植までの期間を延長できる可能性があると考えられる。			
医療技術名	脳死小腸移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
脳死臓器提供登録を行っていた小児腸管機能不全患者に対して、小腸移植を実施した。今後、腸管機能不全に伴う静脈栄養からの離脱が期待されている。			
医療技術名	胸腔鏡下食道閉鎖症手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
閉鎖症に対するに対して今まで開胸手術が主体であったが、胸腔鏡手術が可能となった。			
医療技術名	腹腔鏡下胆道拡張症手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
道拡張症に対して今まで開腹手術のみが実施されていたが、腹腔鏡手術が可能となった。			
医療技術名	1型糖尿病に対する Sensor-Augmented Pump (SAP) を用いた糖尿病治療	取扱患者数	28人
1型糖尿病患者では自己インスリン分泌が絶対的に不足しており、頻回の自己血糖測定結果に基づき、インスリン注射量を決定している。インスリン注入量をあらかじめプログラムし必要なインスリンを持続投与し得るpump機能に加え、sensorによる持続血糖モニタリングが可能なSAPを用いることで、基礎及び追加インスリン量設定を精密に行え、血糖管理が良好となる。			
医療技術名	4D-Phase-contrast MRIを用いた脳動脈瘤・大動脈解離の血流動態評価	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
心電図同期を行った3D-Phase-contrast MRAを用いて動脈瘤の血流を定量的に評価する。			
医療技術名	4D-CTAを用いた脳腫瘍の血管および血流評価	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
320列CTを用いて全脳で時間情報を含む3D-CTAを撮影し、脳腫瘍の血管および血流評価を行う。			
医療技術名	皮膚・軟部の脈管奇形に対するIVR治療	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要			
頭頸部・四肢・体幹部等の脈管奇形(血管奇形・リンパ管奇形及びそれらの混合型)に対して塞栓術や硬化療法などIVR(interventional radiology)治療を行う。			
医療技術名	NY-ESO-1抗原を発現する成人T細胞性白血病/リンパ腫(ATLL)に対するNY-NY-ESO-1蛋白/Poly ICLCとモガリズマブとの併用療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
腫瘍細胞を抗癌剤の攻撃から守るとされる制御性T細胞を、モガリズマブを用いて除去することで、がんワクチンの効果を最大化する治療法である。			
医療技術名	医療技術名ロボット支援下肺癌切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
"daVinci システムをもちいた肺癌手術を高度な医療として行っている。			
ロボット支援手術によってより複雑で細やかな手術手技を可能としており、より低侵襲な手術が可能であると考えられる。			
医療技術名	肺移植患者に対する水素ガス吸入の安全性と有効性の検討	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
肺移植患者(脳死・生体)に対して、水素ガス吸入の安全性および有効性の検討を目的として実施している。水素投与により移植肺虚血再灌流障害を軽減すると考えられ、臨床経過や酸化ストレスマーカーなどのデータ収集を行っている。			

医療技術名	炎症性腸疾患に対する単孔式腹腔鏡手術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要			
標準的な腹腔鏡手術術式が確立されていない炎症性腸疾患患者に対して、外科治療をより低侵襲に実施できる。			
医療技術名	ICG蛍光イメージングを用いた術中肝癌の検出と治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
肝機能検査として投与されるICGは肝癌に取り込まれるため、術中に赤外観察カメラシステムにて検出可能である。本方法は非常に感度が高く、微小な肝癌を検出する事ができるため、同時に切除することでより根治性を高めることができる。			
医療技術名	固形がん患者に対するMogamulizumab・Nivolumab術前併用投与第Ⅰ相治	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
制御性T細胞除去及び免疫チェックポイント阻害薬の併用による腫瘍免疫増強を企図したがん免疫療法を実施している。標準的外科的切除前投与という新規適応と治験薬投与前後の腫瘍組織を用いたバイオマーカー探索を目的としている。			
医療技術名	消化器癌腹膜転移に対する審査腹腔鏡検査時の5-ALAを用いた光線力学	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
5-アミノレブリン酸(5-ALA)を投与し、代謝活性の差により癌細胞に光感受性物質であるポルトポルフィリンIXを蓄積させ、赤色蛍光を観察する。この技術により、微細な腹膜播種診断を正確に実施することができる。			
医療技術名	手術に伴う過大侵襲及び肺合併症に対するグレリン補充療法(医師主導治)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
食道癌根治手術は侵襲性の大きい手術であり、手術に伴う高サイトカイン血症および肺合併症が生じる。手術、侵襲により生体内グレリン産生量が減少した状態に対し、外因性グレリンを補充投与し侵襲抑制、肺合併症を予防する治療法である。			
医療技術名	食道癌術後難治性逆流性食道炎に対する内視鏡的逆流防止弁形成術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
食道癌根治術後の逆流性食道炎は誤嚥性肺炎・二次発がんのリスクの上昇や睡眠障害など術後の予後悪化やQOL低下などをもたらす。それに対して消化管内視鏡下の縫合デバイスを用いた胃管逆流防止弁形成により難治性の逆流性食道炎の治療を行っている			
医療技術名	難治性神経疾患に対する非侵襲的脳刺激法	取扱患者数	71人
当該医療技術の概要			
難治性疼痛やパーキンソン病など難治性神経疾患の症状改善を目的に、反復経頭蓋磁気刺激などの非侵襲的脳刺激法を実施している。			
医療技術名	悪性神経膠腫に対するWT1ペプチドワクチン療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
難治性で予後が非常に悪い悪性神経膠腫に対する免疫療法としてWT1ペプチドワクチンを投与し患者の予後改善を目指している。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髓性筋萎縮症	5	56	ペーチェット病	146
2	筋萎縮性側索硬化症	33	57	特発性拡張型心筋症	280
3	脊髓性筋萎縮症	9	58	肥大型心筋症	45
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	4
5	進行性核上性麻痺	26	60	再生不良性貧血	85
6	パーキンソン病	366	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	13	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	116
9	神經有棘赤血球症	1	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	27
11	重症筋無力症	222	66	IgA腎症	31
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性囊胞腎	43
13	多発性硬化症／視神經脊髄炎	120	68	黄色靭帯骨化症	4
14	慢性炎症性脱髓性多発神経炎／多巣性運動ニューロバチー	21	69	後縫靭帯骨化症	93
15	封入体筋炎	4	70	広範脊柱管狭窄症	8
16	クロウ・深瀬症候群	2	71	特発性大腿骨頭壊死症	67
17	多系統萎縮症	27	72	下垂体性ADH分泌亢進症	14
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	85	73	下垂体性TSH分泌亢進症	6
19	ライソゾーム病	56	74	下垂体性PRL分泌亢進症	15
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	20
21	ミトコンドリア病	12	76	下垂体性ゴナドロビン分泌亢進症	4
22	もやもや病	30	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	54
23	ブリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	156
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	4
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	8	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	110
30	遠位型ミオバチー	4	85	特発性間質性肺炎	36
31	ベスレムミオバチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	56
32	自己貪食空胞性ミオバチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	13
34	神経線維腫症	75	89	リンパ脈管筋腫症	36
35	天疱瘡	44	90	網膜色素変性症	83
36	表皮水疱症	41	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	9	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	62
39	中毒性表皮壊死症	3	94	原発性硬化性胆管炎	10
40	高安動脈炎	78	95	自己免疫性肝炎	10
41	巨細胞性動脈炎	2	96	クローン病	217
42	結節性多発動脈炎	18	97	潰瘍性大腸炎	262
43	顯微鏡的多発血管炎	25	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	17	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	3
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	10	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	10	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	22	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	6	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	445	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	126	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	187	106	クリオビリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	74	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	36	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	10	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	6	110	プラウ症候群	0

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数	疾患名	患者数
111	先天性ミオパシー	3	161 家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	6
113	筋ジストロフィー	24	163 特発性後天性全身性無汗症	3
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164 眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	165 肥厚性皮膚骨膜症	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166 弾性線維性仮性黄色腫	2
117	脊髄空洞症	1	167 マルファン症候群	4
118	脊髄膜瘤	0	168 エーラス・ダンロス症候群	3
119	アイザックス症候群	0	169 メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170 オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171 ウィルソン病	4
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172 低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173 VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174 那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175 ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176 コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	3	177 有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178 モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	179 ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180 ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181 クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182 アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183 ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184 アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185 コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186 ロスマンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	1	187 歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188 多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189 無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190 鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191 ウエルナー症候群	3
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192 コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193 プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	1	194 ソトス症候群	1
145	ウエスト症候群	0	195 ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196 ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197 1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198 4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199 5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスマッセン脳炎	0	201 アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202 スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203 22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204 エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205 脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206 脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207 総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	18	208 修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	1	209 完全大血管転位症	1
160	先天性魚鱗癖	0	210 単心室症	5

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	2	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	フアロー四徴症	5	263	脳膜黄色腫症	1
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリボタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワット症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壞疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	32	270	慢性再発性多発性骨髓炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	6
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	1
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	2
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	2
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリップル・トレノナー・ウェーバー症候群	3
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	3	283	後天性赤芽球病	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	3	284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	2	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	絶排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	絶排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	1	296	胆道閉鎖症	2
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	2
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	1
251	尿素サイクル異常症	0	299	囊胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	5
253	先天性葉酸吸收不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	2	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	13

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	19	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシテール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクロースてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	9	324	メチルグルタコニ酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	20
315	ネイルバテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	35

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料	・ハイケアユニット入院医療管理料
・超急性期脳卒中加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・診療録管理体制加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・医師事務作業補助体制加算	・小児入院医療管理料2
・急性期看護補助体制加算	・
・看護職員夜間配置加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算	・
・感染防止対策加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊婦管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・総合評価加算	・
・病棟薬剤業務実施加算	・
・データ提出加算	・
・退院支援加算	・
・精神疾患診療体制加算	・
・精神科急性期医師配置加算	・
・救命救急入院料	・
・特定集中治療室管理料	・

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1及び又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
・糖尿病合併症管理料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・がん患者指導管理料	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・移植後患者指導管理料	・同種死体肺移植術
・糖尿病透析予防指導管理料	・生体部分肺移植術
・外来放射線照射診療料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カーテルによるもの)
・ニコチン依存症管理料	・経カテーテル大動脈弁置換術
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・経皮的中隔心筋焼灼術
・がん治療連携計画策定料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・薬剤管理指導料	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・医療機器安全管理料1	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・医療機器安全管理料2	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・補助人工心臓
・遺伝学的検査	・小児補助人工心臓
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・同種心移植術
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・同種心肺移植術
・国際標準検査管理加算	・骨格筋由来細胞シート心表面移植術
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・胆管悪性腫瘍手術(脾頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下肝切除術
・胎児心エコー法	・生体部分肝移植術
・ヘッドアップティルト試験	・同種死体肝移植術
・長期継続頭蓋内脳波検査	・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
・中枢神経磁気刺激による誘発筋電図	・腹腔鏡下脾頭十二指腸切除術

・光トポグラフィー	・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
・脳磁図	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・脳波検査判断料1	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・神経学的検査	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・補聴器適合検査	・同種死体腎移植術
・ロービジョン検査判断料	・生体腎移植術
・コンタクトレンズ検査料	・膀胱水圧拡張術
・内服・点滴誘発試験	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・センチネルリンパ節生検(片側)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・画像診断管理加算2	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・遠隔画像診断	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影、ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影又は乳房用ポジトロン断層撮影	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・冠動脈CT撮影加算	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・外傷全身CT加算	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・心臓MRI撮影加算	・輸血管理料 I
・乳房MRI撮影加算	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・手術時歯根面レーザー応用加算
・外来化学療法加算1	・麻酔管理料(I)
・無菌製剤処理料	・麻酔管理料(II)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・放射線治療専任加算
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・外来放射線治療加算
・運動器リハビリテーション料(I)	・高エネルギー放射線治療
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・1回線量増加加算
・がん患者リハビリテーション料	・強度変調放射線治療(IMRT)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失调症治療指導管理料に限る。)	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・医療保護入院等診療料	・定位放射線治療
・硬膜外自家血注入	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・透析液水質確保加算	・画像誘導密封小線源治療加算
・磁気による膀胱等刺激法	・病理診断管理加算
・う蝕歯無痛的窓洞形成加算	・短期滞在手術基本料1

・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術	
・治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	
・羊膜移植術	
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	
・網膜再建術	
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡下子宮体がん根治手術	・
・経カテーテル大動脈弁留置術	・
・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	355回／年
剖検の状況	剖検症例数 35 例 / 剖検率 13.5 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

※剖検症例数、剖検率は平成28年度病院資料「D-6」から



高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
生体内ATP産生の可視化と制御機構の解明	朝野仁裕	循環器内科	4,706,000	委 国立研究開発法人科学技術振興機構
心不全生体モニタリングモデルマウスを用いた重症心不全の難治化分子機序の解明	朝野仁裕	循環器内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
赤血球質的異常に着目した新しい心不全病態概念の確立	大谷朋仁	循環器内科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
ATP産生増強による新規心不全治療法開発に向けた心筋エネルギー代謝調節機構解明	木岡秀隆	循環器内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
重症心不全患者における至適栄養療法の確立	坂本陽子	循環器内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
ゲノム編集技術を難治性重症心不全治療へ応用する基盤技術整備	肥後修一郎	循環器内科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
心筋におけるミトコンドリアDNA分解制御機構の解明とその心不全治療への応用	彦慈俊吾	循環器内科	1,040,000	補 独立行政法人日本学術振興会
心臓逆リモデリングにおけるミトコンドリアダイナミクスの関与の解明	山口修	循環器内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
「脱細胞化マトリックスを用いた心臓の再生」～立体臓器構築をめざした基盤技術の確立	李鍾國	循環器内科	2,730,000	補 独立行政法人日本学術振興会
ヒストンアセチル化制御メカニズム解明による治療法開発	猪阪善隆	腎臓内科	4,680,000	補 独立行政法人日本学術振興会
患者家系から発見した異常遺伝子配列を用いた家族性尿細管間質腎炎の分子病理学的研究	貝森淳哉	腎臓内科	1,690,000	補 独立行政法人日本学術振興会
マグネシウムによるリン毒性制御機構の解明	坂口悠介	腎臓内科	2,730,000	補 独立行政法人日本学術振興会
腎における脂質毒性抑制機構としてのオートファジーの役割とその病態生理的意義の解明	高畠義嗣	腎臓内科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
リン負荷がEPOに及ぼす影響(リン性貧血なる新概念の創出)	濱野高行	腎臓内科	1,300,000	補 独立行政法人日本学術振興会
25-hydroxyvitamin Dが腎線維化に与える直接的影響の検討	松井功	腎臓内科	910,000	補 独立行政法人日本学術振興会
T細胞受容体の量的制御による抗体産生反応調節機構の解明と自己免疫疾患治療への応用	水井理之	腎臓内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
腸管炎症における共生微生物および食事成分を介した免疫誘導組織の役割の解明	飯島英樹	消化器内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会

小計

腸内微生物叢の宿主共生と宿主相互作用機構の解明	飯島英樹	消化器内科	5,850,000	委	日本医療研究開発機構
肝細胞Rab11aを介した細胞内輸送の分子機構の解明	阪森亮太郎	消化器内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ポルフィリン合成経路代謝産物解析による新規肺癌診断法の開発	重川稔	消化器内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
グライコミクスを用いた腸管炎症および腸炎関連癌における腸内環境解析	新崎信一郎	消化器内科	2,210,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肝発癌過程におけるアボトーシスとオートファジーの統合解析と新規治療法の開発	竹原徹郎	消化器内科	10,010,000	補	独立行政法人日本学術振興会
がん特異的アミノ酸輸送体阻害作用を有する抗がん剤の開発	竹原徹郎	消化器内科	10,000,000	補	文部科学省
オートファジーによる肺サイモゲン顆粒とインフラマソームの制御を介した急性肺炎治療	竹原徹郎	消化器内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肝細胞と脂肪細胞におけるRubiconを介した脂肪代謝の制御	竹原徹郎	消化器内科	4,550,000	補	独立行政法人日本学術振興会
放射線障害の克服による肝細胞癌に対する放射線治療の適応拡大	異智秀	消化器内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
癌と線維芽細胞のクロストークにおけるエクソソームの役割	林義人	消化器内科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ヒト肝細胞を用いた肝発癌モデルの開発と、発癌遺伝子変異に依存した治療薬の解明	正田隼人	消化器内科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
B型肝炎の病態における宿主遺伝子多型の関与についての検討	山田涼子	消化器内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
高齢糖尿病患者における併存疾患別の血糖管理目標と薬剤選択の最適化	岩橋博見	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脂肪細胞酸化還元状態の肥満病態における意義解明	奥野陽亮	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
糖尿病大血管症の非侵襲・簡便なリスク層別化システムの構築と効果的な予防法の探索	片上直人	糖尿病・内分泌・代謝内科	3,120,000	補	独立行政法人日本学術振興会
2型糖尿病発症・進展におけるグルカゴン分泌の病態生理学的意義の解明	河盛段	糖尿病・内分泌・代謝内科	650,000	補	独立行政法人日本学術振興会
血管・脂肪組織由来分泌因子Favineの脂肪蓄積作用機序の解明と新たな機能探索	小林祥子	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
アディポネクチンの新たな作用発現・濃度調節機構とFavine作用機序の解明	下村伊一郎	糖尿病・内分泌・代謝内科	5,070,000	補	独立行政法人日本学術振興会
医歯工連携によるユーザーフレンドリーなメタボロミクス技術の開発ならびに生活習慣病研究への応用	下村伊一郎	糖尿病・内分泌・代謝内科	17,550,000	委	日本医療研究開発機構

小計

新規臨床検査法、FACS-mQの開発	高野徹	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
末梢動脈疾患の病態進展における糖尿病の寄与の解明	高原充佳	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肥満脂肪組織におけるアミノ酸・プリン代謝とアディポサイトカイン産生異常	西澤均	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
アディポネクチンの新たな作用機序およびイメージング手法による生理動態解明	前田法一	糖尿病・内分泌・代謝内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
障害臍β細胞の機能回復・機能的臍β細胞作製へ向けた試み	松岡孝昭	糖尿病・内分泌・代謝内科	910,000	補	独立行政法人日本学術振興会
遺伝子改変T細胞を用いた肺癌に対する新規免疫療法の開発	岩坂幸太	呼吸器内科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
びまん性肺疾患における新規疾患特異的自己抗体	木田博	呼吸器内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肺線維症におけるアディポネクチンの線維化制御機構解明と治療法開発	玄山宗到	呼吸器内科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
エクソソームの最新プロテオミクスによる新規COPDバイオマーカー探索	武田吉人	呼吸器内科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
エクソソームの定量プロテオミクスによる肺線維症における画期的バイオマーカー探索	平田陽彦	呼吸器内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
慢性炎症におけるガイダンス因子の病的意義の解明とその制御	熊ノ郷淳	免疫内科	67,557,100	委	日本医療研究開発機構
自己免疫疾患におけるエクソソームによる炎症制御機構の解明	高松潔太	免疫内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
1細胞計測システムを用いた癌や免疫細胞特性の非侵襲的計測方法の確立	高松潔太	免疫内科	9,100,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
抗腫瘍免疫の評価系としての白血病モデルの確立とその成果に基づくヒト免疫療法の強化	中田潤	免疫内科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
卵巣癌に対するWT1特異のがん免疫療法の開発と抗腫瘍免疫担当細胞機能の質的解析	西田純幸	免疫内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
インテグリンα8の骨髓内での発現・機能解析－多発性骨髓腫治療への応用に向けて－	一井倫子	血液・腫瘍内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
抗補体薬の臨床応用に向けた網羅的解析	植田康敬	血液・腫瘍内科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
血小板インテグリンシグナル機構の解明と血管病変形成に関する検討	柏木浩和	血液・腫瘍内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
新規抗血栓療法をめざしたインテグリンαIIbβ3活性化と活性化維持機構の解明	加藤恒	血液・腫瘍内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

造血幹細胞における包括的転写調節分子SATB1の機能解析	金倉謙	血液・腫瘍内科	7,410,000	補	独立行政法人日本学術振興会
リンパ球の分化・増殖におけるアナモルシンの役割の解明	柴山浩彦	血液・腫瘍内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
悪性神経膠腫に対するWT1ペプチドワクチン療法の抗腫瘍効果を 増強する治療法の開発	坪井昭博	血液・腫瘍内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
発作性夜間ヘモグロビン尿症患者のエクリズマブ治療反応性の 検討	西村純一	血液・腫瘍内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
リンパ造血器疾患の病態形成におけるシグナル調節分子STAP -2の関与	前田哲生	血液・腫瘍内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
表面抗原ESAMを指標とした造血幹細胞の活性化を誘導する分 子機構の同定と臨床応用	横田貴史	血液・腫瘍内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
閉塞性睡眠時無呼吸の診断と治療効果を予測するバイオマー カーの探索研究	伊東範尚	老年・高血圧内科	2,860,000	補	独立行政法人日本学術振興会
加齢に伴う動脈硬化形成におけるマクロファージのCYLDの機能 解明	鷹見洋一	老年・高血圧内科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
アルツハイマー病における病的タウ蛋白の脳内伝播機構の解明 とその新規治療法への応用	武田朱公	老年・高血圧内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
軽度認知機能障害の認知機能悪化速度を予測するバイオマー カーの探索研究	武田昌生	老年・高血圧内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脳血管障害を伴うアルツハイマー型認知症の臨床経過と動物モデ ルの構築	竹屋泰	老年・高血圧内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
メカニカルストレス応答因子に着目した新規大動脈瘤治療法の開 発	谷山義明	老年・高血圧内科	2,730,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ミエロイド由来の未分化細胞群を標的とした慢性炎症制御を目指 した新規治療の開発	中神啓徳	老年・高血圧内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
高血圧ワクチン実用化による降圧の質的改善を目指した新規治 療	中神啓徳	老年・高血圧内科	5,980,000	補	独立行政法人日本学術振興会
生活習慣病治療薬によるアルツハイマー病治療戦略の基盤構築	山本浩一	老年・高血圧内科	3,120,000	補	独立行政法人日本学術振興会
サルコペニア治療薬の臨床応用に向けた基礎的検討	山本浩一	老年・高血圧内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
要介護高齢者、フレイル高齢者、認知症高齢者に対する栄養療 法、運動療法、薬物療法に関するガイドライン作成に向けた調査 研究	樂木宏実	老年・高血圧内科	1,000,000	委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
フレイル高齢者のレジストリ研究及び地域高齢者におけるフレイ ル予防プログラムの開発・検証	樂木宏実	老年・高血圧内科	1,000,000	委	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
高齢癌術後予後増悪因子であるフレイルへの術前介入の有用性 と機序に関する包括的研究	樂木宏実	老年・高血圧内科	5,070,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

19

老化による血管内皮障害に関する新規ユビキチン系分子の探索及び臨床応用への可能性	柴木宏実	老年・高血圧内科	650,000	補	独立行政法人日本学術振興会
iPS細胞によるドラッグ・リポジショニング法を用いた新規抗サルコペニア剤の開発	萩原圭祐	漢方内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
血管新生薬剤による虚血性心筋症の克服	上野高義	心臓血管外科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脳死下心臓移植レシピエント心臓弁を用いた脱細胞化ヒト心臓弁の移植に関する安全性および有効性の研究	上野高義	心臓血管外科	5,000,000	補	文部科学省
CFDを用いた大動脈解離に対する新しい治療戦略の構築	阪本朋彦	心臓血管外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
国際・未来医療のための人材養成拠点創生	澤芳樹	心臓血管外科	44,034,000	補	文部科学省
心筋幹細胞ニッヂを制御する細胞外基質を用いた新規デバイスによる心不全治療法の開発	澤芳樹	心臓血管外科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
循環器疾患におけるiPS細胞由来心筋細胞を用いた再生創薬に関する研究	澤芳樹	心臓血管外科	13,910,000	補	独立行政法人日本学術振興会
iPS細胞を用いた三次元心筋組織チップ自動作製装置の開発	澤芳樹	心臓血管外科	3,120,000	委	日本医療研究開発機構
iPS細胞を用いた心筋再生治療創成拠点	澤芳樹	心臓血管外科	429,133,000	委	日本医療研究開発機構
企業等の医療機器開発人材の育成における教育支援方法の開発に関する研究	澤芳樹	心臓血管外科	6,468,000	補	厚生労働省
生体多光子励起イメージング技術を利用した新規低侵襲・高解像度がん診断装置の開発	澤芳樹	心臓血管外科	4,950,000	委	日本医療研究開発機構
心不全に対する再生医療におけるバイオインフォマティックスデータベースの構築	澤芳樹	心臓血管外科	4,800,000	委	日本医療研究開発機構
血管新生因子誘導剤による術後脊髄虚血予防法の開発	島村和男	心臓血管外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
血管新生薬剤による心臓外科手術後創傷治癒促進効果の検討	戸田宏一	心臓血管外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
長期左心補助人工心臓使用下における弁機能・形態変化の多角的解析	秦広樹	心臓血管外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
in vivoイメージング技術を用いた心筋組織の可視化による病態生理の解明	松浦良平	心臓血管外科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
アロiPS細胞の臨床応用を目指した免疫寛容法の開発	宮川繁	心臓血管外科	5,200,000	補	独立行政法人日本学術振興会
iPS細胞を用いた冠循環を構築する三次元心筋組織の創生	宮川繁	心臓血管外科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

ラット心筋梗塞モデルにおける心筋組織片の有効性の評価	宮川繁	心臓血管外科	10,000,000	委	国立大学法人京都大学
細胞シートによる再生医療の汎用性向上を目指した細胞シート凍結方法の開発	吉川泰司	心臓血管外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脂肪幹細胞およびiPS細胞を用いた肺再生医療の開発	奥村明之進	呼吸器外科	3,900,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肺移植関連酸化ストレスに対する水素による新規包括的治療の開発	川村知裕	呼吸器外科	910,000	補	独立行政法人日本学術振興会
癌周囲微小環境を標的とした肺癌治療の開発	新谷康	呼吸器外科	6,110,000	補	独立行政法人日本学術振興会
胸部悪性腫瘍における腫瘍免疫抑制機構の解明とその臨床応用	舟木壮一郎	呼吸器外科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
人工修飾型マイクロRNAによるin vivoリプログラミング技術の新構築	石井秀始	消化器外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
癌代謝特性を標的化した難治性消化器癌の革新的創薬基盤技術の新構築	石井秀始	消化器外科	4,290,000	補	独立行政法人日本学術振興会
線虫を用いた次世代肺癌診断法の有効性についての検討	川本弘一	消化器外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
長鎖ノンコーディングRNAエピジェネティック制御機構の解明とその癌治療への応用	工藤敏啓	消化器外科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
胃がんに対する標準治療確立のための多施設共同研究	黒川幸典	消化器外科	800,000	委	国立研究開発法人国立がん研究センター
次世代シーケンサーを用いた胃癌・GIST患者末梢血中腫瘍由来浮遊DNAの検出	黒川幸典	消化器外科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
拠点整備およびSCRUM-Japanへの参加および症例登録	佐藤太郎	消化器外科	250,000	委	国立研究開発法人国立がん研究センター
癌遺伝子選択性を実現するエピゲノム創薬の新展開	佐藤太郎	消化器外科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
消化管間葉系腫瘍に対する分子標的治療薬耐性のメカニズムの解明	高橋剛	消化器外科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
大腸癌幹細胞を標的とした新規抗体療法の基礎的研究	高橋秀和	消化器外科	2,210,000	補	独立行政法人日本学術振興会
グレリンによる手術侵襲軽減のメカニズムの解明と臨床応用へ向けた投与法の最適化	土岐祐一郎	消化器外科	4,810,000	補	独立行政法人日本学術振興会
マイクロRNAメチル化を検出する革新的がんバイオマーカーの創出	西田尚弘	消化器外科	15,000,000	委	日本医療研究開発機構
マイクロRNA分子のメチル化を網羅的に検出する革新的チップ技術の創出	西田尚弘	消化器外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

高精度がん診断ためのマイクロRNAメチル化機構の解明	西田尚弘	消化器外科	7,020,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肝胆膵領域癌の低酸素環境下における癌間質をターゲットとした新規治療法の開発	野田剛広	消化器外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
オートファジー・リソーム機能異常を標的とした大腸癌幹細胞標的治療薬の開発	原口直紹	消化器外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
食道癌に対する化学療法感受性および副作用予測におけるABCトランスポーターの意義	牧野知紀	消化器外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
炎症性腸疾患患者に対する自己脂肪由来幹細胞治療の安全性と有効性に関する研究	水島恒和	消化器外科	390,000	補	独立行政法人日本学術振興会
グレリン依存度に応じた選択的グレリン支持療法の開発	宮崎安弘	消化器外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
大腸発がん機構のゲノム、エピゲノムの網羅的解析情報に関する研究	森正樹	消化器外科	4,200,000	委	国立大学法人東京医科歯科大学
包括的統合的アプローチによる日本人早期肺癌の高精度診断の実現化	森正樹	消化器外科	40,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
生体多光子励起イメージング技術を利用した新規低侵襲・高解像度がん診断装置の開発	森正樹	消化器外科	4,947,877	委	日本医療研究開発機構
体液中マイクロRNA測定技術基盤開発	森正樹	消化器外科	10,000,000	委	一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム
乳癌術前化学療法後の病理学的完全奏功(pCR)の術前診断システムの開発	金昇晋	乳腺・内分泌外科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
化学療法施行乳癌におけるOSNA法によるセンチネルリンパ節転移診断の有用性の検討	島津研三	乳腺・内分泌外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
トラスツズマブ獲得耐性の機序:TGF-β /SMAD経路と上皮間葉転換の関与	下田雅史	乳腺・内分泌外科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ホルマリン固定組織へ応用可能な多重遺伝子発現解析に基づく乳癌の再発予測法の開発	直居靖人	乳腺・内分泌外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
小児+AE330悪性固形腫瘍に対する抗アポトーシスタンパクを標的とした分子標的治療の開発	上野豪久	小児外科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
壞死性腸炎(NEC)に対する補体系制御による治療法の開発	高間勇一	小児外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
リンパ管発生因子の発現からみた脈管奇形(リンパ管腫)における新しい治療戦略	田附裕子	小児外科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
2光子励起顕微鏡を用いた眼球深部生体観察による緑内障マウス酸化ストレスの解析	臼井審一	眼科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
培養口腔粘膜上皮細胞シート移植後の角膜移植施行における摘出角膜組織の解析	大家義則	眼科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

生体適合性架橋剤とフェムト秒レーザーを用いた角膜実質再生治療法の開発	相馬剛至	眼科	650,000	補	独立行政法人日本学術振興会
人工視覚の慢性長時間連続電気刺激が視機能及び視覚中枢系に与える影響についての検討	西田健太郎	眼科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
iPS細胞を用いた角膜再生治療法の開発	西田幸二	眼科	137,870,000	委	日本医療研究開発機構
iPS細胞を用いた緑内障等メカノストレス性眼疾患の病態解明と治療開発	西田幸二	眼科	7,280,000	補	独立行政法人日本学術振興会
医療情報の高度利用による医療システムの研究開発/再生医療製品の有効性予測支援システムの研究開発	西田幸二	眼科	12,000,000	委	日本医療研究開発機構
希少難治性角膜疾患の疫学調査	西田幸二	眼科	20,000,000	補	厚生労働省
ミトコンドリアDNAの発現解析を通じた眼疾患における慢性炎症の病態解析	橋田徳康	眼科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
持続性細胞内シグナル活性異常を標的とした未熟児網膜症の新規治療法の開発	福嶋葉子	眼科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
網膜色素変性症に対する電気刺激によるハイブリッド視覚再生の研究	不二門尚	眼科	6,500,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脈絡膜上一経網膜刺激法による歩行可能な人工網膜の開発	不二門尚	眼科	50,000,000	補	文部科学省
電気刺激とアクチュエーター制御による焦点合わせが正確な調節可能眼内レンズの開発	不二門尚	眼科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
視神經乳頭周囲強膜クロスリンクによる緑内障神経保護治療法開発	松下賢治	眼科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
緑内障患者における睡眠障害の研究	三木篤也	眼科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ラマン分光法を用いた生体内ミトコンドリア機能の評価法の開発と視神経疾患の病態解明	森本壯	眼科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
解糖系を標的とした頭頸部癌に対する新規治療法の実現可能性の検証	猪原秀典	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ヒトパピローマウイルス陽性中咽頭癌の撲滅に向けた包括的研究	猪原秀典	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	28,210,000	補	独立行政法人日本学術振興会
眼運動解析によるメニエール病モデルマウス内耳の内リンパ水腫存在部位の診断法の開発	今井貴夫	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
高速度撮影および電気声門図を用いた咳払い時の喉頭閉鎖障害の分析法の確立	小川真	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
網羅的タンパク解析によるヒトパピローマウイルス陽性中咽頭癌の治療抵抗性因子の同定	武本憲彦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

好酸球性副鼻腔炎患者鼻茸に高発現するSema4Aの病的意義解明	前田陽平	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
糖代謝活性とヒトパピローマウイルスを指標とした中咽頭癌の個別化治療に向けた研究	道場隆博	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,340,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ウルトラファインバブルによる新規骨粗鬆症予防・治療法の開発	蛇名耕介	整形外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ナノセラミックスと骨形成因子の複合体新規バイオマテリアルによる骨再生技術の確立	海渡貴司	整形外科	2,600,000	補	(独)日本学術振興会
股関節疾患における関節不安定性の関与の解明と治療評価	坂井孝司	整形外科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ナノレベルの線維配向性を有するスキャフォールドを用いた新たな半月板治療の確立	下村和範	整形外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
特発性大腿骨頭壞死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究	菅野伸彦	整形外科	7,059,000	補	厚生労働省
筋肉減少症、骨粗鬆症、変形性関節症の包括的評価システムの構築	高尾正樹	整形外科	5,200,000	委	日本医療研究開発機構
肉腫肺転移を増大させる宿主因子の同定	竹中聰	整形外科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
シュワン細胞ミトコンドリア機能制御による神経因性疼痛に対する新規治療法の開発	田中啓之	整形外科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
IL-17を標的としたDNAワクチンによる関節リウマチ骨破壊抑制治療の確立	富田哲也	整形外科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脊椎関節炎の疫学調査・診断基準作成と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究	富田哲也	整形外科	4,992,000	補	厚生労働省
ジャパン・スポーツ・サイバーフィジカルシステム(JS-CPS)構築研究事業拠点	中田研	整形外科	45,000,000	委	スポーツ庁
欠損を有する半月板損傷に対するコラーゲン半月板補填材を用いた治療法の開発	中田研	整形外科	62,000,000	補	文部科学省
医療通訳の認証のあり方に関する研究	中田研	整形外科	5,000,000	補	厚生労働省
中高齢者に対する全身振動トレーニングの健康増進効果の研究	中田研	整形外科	3,000,000	委	箕面市
滑膜肉腫特異的融合遺伝子のin vivo機能解析及び創薬ターゲットの探索	濱田健一郎	整形外科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
立体造形による機能的な生体組織製造技術の開発/細胞を用いた機能的な立体組織および立体臓器作製技術の研究開発/高機能足場素材とバイオ3Dプリンタを用いた再生組織・臓器の製造技術の開発	前達雄	整形外科	7,046,000	委	日本医療研究開発機構
ロボットシステムによる半月板生体力学機能評価—半月機能温存治療の新たな評価法—	前達雄	整形外科	910,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

思春期待発性側弯症患者の3D椎体形態解析による椎体変形の可逆性についての検討	牧野孝洋	整形外科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
3次元シミュレーションによる四肢矯正システムの発展的開発	村瀬剛	整形外科	4,030,000	補	独立行政法人日本学術振興会
幹細胞技術とティッシュエンジニアリングによる運動器変性疾患の機能的再建の確立	吉川秀樹	整形外科	741,000	補	(独)日本学術振興会
ティッシュエンジニアリングによるiPS細胞由来軟骨細胞を用いた重度軟骨損傷治療法の開発	吉川秀樹	整形外科	20,000,000	委	日本医療研究開発機構
iPS細胞による次世代骨・軟骨再生療法のための培養誘導技術の開発	吉川秀樹	整形外科	3,510,000	補	独立行政法人日本学術振興会
小児成育軟骨帯損傷における新規軟骨再生活療の確立	吉田清志	整形外科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
皮膚粗鬆症における表皮内コルチゾール再活性化酵素(11 β -HSD1)の役割	越智沙織	皮膚科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ヒト白斑モデルTh17型マウスを用いた白斑発症機構の解明	片山一朗	皮膚科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
癌特異的アポトーシスを誘導する革新的分子標的薬による難治性皮膚癌に対する治療薬の医師主導臨床試験による実用化開発	片山一朗	皮膚科	20,000,000	補	文部科学省
発汗と精神神経症状を統合するmTORの新規Ca2+チャネル調節機構の解明	金田眞理	皮膚科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
皮膚悪性リンパ腫におけるガングリオシド解析と新規治療の可能性探索	清原英司	皮膚科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
毛周期、毛包幹細胞維持における局所コルチゾール産生の役割	寺尾美香	皮膚科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
自己免疫性白斑に於けるT細胞アナジー破綻メカニズムの解明	種村篤	皮膚科	2,340,000	補	独立行政法人日本学術振興会
皮膚の恒常性維持機能における末梢血間葉系細胞の役割解明とその制御法開発	玉井克人	皮膚科	9,230,000	補	独立行政法人日本学術振興会
レックリングハウゼン病の機械刺激受容システム解明とケロイド治療への応用	久保盾貴	形成外科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
細胞骨格制御因子をターゲットとした創傷治癒機構の解明	久保盾貴	形成外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
移植筋体に対する神経二重支配についての基礎的研究	清家志円	形成外科	780,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた末梢神経再生の質的向上の試み	富田興一	形成外科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ケロイド肥厚性瘢痕における微小血管の関与—内皮由来因子に着目する	細川瓦	形成外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

血管新生とSema3Eをターゲットとした進行型多発性硬化症治療の試み	奥野龍祐	神経内科・脳卒中科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
悪性腫瘍関連凝固異常症による脳血管障害の実態調査と新規バイオマーカーの探索	坂口学	神経内科・脳卒中科	910,000	補	独立行政法人日本学術振興会
RANKL/RANKシグナルをターゲットにした炎症制御による新規脳梗塞治療法の開発	島村宗尚	神経内科・脳卒中科	32,500,000	委	国立研究開発法人科学技術振興機構
骨髓由来免疫抑制細胞に着目した脳梗塞における新規炎症制御メカニズムの解明	島村宗尚	神経内科・脳卒中科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
認知症疾患の克服をめざす基礎・臨床融合研究	永井義隆	神経内科・脳卒中科	1,400,000	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
ゲノム編集技術を用いたモデル動物作出による精神神経疾患の病態解明	永井義隆	神経内科・脳卒中科	500,000	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
神経変性疾患におけるエクソソームを介した生体内プロテオスタークス維持機構の解明	永井義隆	神経内科・脳卒中科	4,550,000	補	独立行政法人日本学術振興会
前頭側頭型認知症の動物モデルを用いた候補治療薬の開発	永井義隆	神経内科・脳卒中科	19,584,000	委	日本医療研究開発機構
軸索内リポソーム機能障害による翻訳能低下に基づくALS/FTLD病態の統合的理	長野清一	神経内科・脳卒中科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
認知症疾患の克服をめざす基礎・臨床融合研究	長野清一	神経内科・脳卒中科	908,919	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
筋強直性ジストロフィーの包括的治療法確立	中森雅之	神経内科・脳卒中科	2,730,000	補	独立行政法人日本学術振興会
伸長リピート特異的転写抑制によるリピート病の根源的治療開発	中森雅之	神経内科・脳卒中科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
パーキンソン病における α -シヌクレインの構造及び機能解析	望月秀樹	神経内科・脳卒中科	4,030,000	補	独立行政法人日本学術振興会
BMIを用いた運動・コミュニケーション機能の代替	望月秀樹	神経内科・脳卒中科	4,720,000	委	日本医療研究開発機構
超音波を応用した神経変性疾患の低侵襲診断機器開発	望月秀樹	神経内科・脳卒中科	15,995,200	委	日本医療研究開発機構
核酸医薬による遺伝性パーキンソン病の治療	望月秀樹	神経内科・脳卒中科	60,000,000	補	文部科学省
脳血管障害とパーキンソン病における脳神経回路障害とその機能回復に関わるトランスレータブル脳・行動指標の開発	望月秀樹	神経内科・脳卒中科	7,500,000	委	日本医療研究開発機構
パーキンソン病マーモセットにおけるiPS由来 α -Syn蛋白伝播	望月秀樹	神経内科・脳卒中科	4,680,000	補	独立行政法人日本学術振興会
生活行為障害の分析に基づく認知症リハビリテーションの標準化に関する研究	池田学	神経科・精神科	7,328,000	補	厚生労働省

小計

認知症におけるアパーの神経基盤に関する研究	池田学	神経科・精神科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脳磁図と経頭蓋直流電気刺激法による統合失調症の病態解明と治療法の開発	石井良平	神経科・精神科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脳内病理過程を反映するバイオマーカーによる超早期スクリーニング法開発	大河内正康	神経科・精神科	23,400,000	委	日本医療研究開発機構
コホートプール解析(三府県大阪コホート)	喜多村祐里	神経科・精神科	700,000	委	国立研究開発法人国立がん研究センター
プレセニリン・セクレターゼによるアミロイド β 切断が細胞内で起こるか?	田上真次	神経科・精神科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
認知症に関する細胞内異常蓄積蛋白の分解過程におけるリン酸化の影響	田中稔久	神経科・精神科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
統合失調症の脳構造脆弱性のメガアナリシス	橋本亮太	神経科・精神科	8,320,000	補	独立行政法人日本学術振興会
統合失調症の脳画像・生理・認知行動解析による病態神経回路解明(総括)	橋本亮太	神経科・精神科	2,080,000	委	日本医療研究開発機構
統合失調症の脳画像・生理・認知行動解析による病態神経回路解明(疾患)	橋本亮太	神経科・精神科	24,820,000	委	日本医療研究開発機構
マウストランスクリプトミクス新戦略によるアルツハイマー病関連遺伝子同定と機能解析	森原剛史	神経科・精神科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
神経膠腫の不均一性に対する画像・病理・遺伝子の統合的解析	有田英之	脳神経外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ヒト嗅粘膜組織由来神経前駆細胞による脊髄損傷治療法の開発	大西諭一郎	脳神経外科	2,730,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脳梁刺激による皮質興奮性の制御の試み	押野悟	脳神経外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
WT1ペプチドワクチンを中心とした悪性神経膠腫幹細胞標的療法の探索	香川尚己	脳神経外科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
炎症関連サイトカインはてんかん発作症状のバイオマーカーとなりうるか?	貴島晴彦	脳神経外科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脳血管障害とパーキンソン病における脳神経回路障害とその機能回復に関わるトランスレータブル脳・行動指標の開発	貴島晴彦	脳神経外科	14,170,000	委	日本医療研究開発機構
慢性疼痛に対する反復経頭蓋磁気刺激のメカニズム解明 ラットモデルのfMRI解析	齋藤洋一	脳神経外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
DecNetを応用した精神疾患の診断・治療システムの開発と臨床応用拠点の構築	齋藤洋一	脳神経外科	15,423,000	委	日本医療研究開発機構
大規模研究にて同定された統合失調症のリスク遺伝子の中間表現型解析	藤本美智子	神経科・精神科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

脳梗塞急性期における皮質拡延性抑制とHMGB1核外放出の“負の連鎖”に関する研究	中村元	脳神経外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
体内埋込型集積回路内蔵フレキシブル超薄膜センサシートを用いたマーモセットの脳信号計測システムの開発	平田雅之	脳神経外科	667,929	委	日本医療研究開発機構
アンドロイドフィードバック(MEGによるアンドロイド制御)	平田雅之	脳神経外科	509,222	委	科学技術振興機構
大容量体内-体外無線通信技術及び大規模脳情報処理技術の研究開発とBMIへの応用	平田雅之	脳神経外科	749,628	委	情報通信研究機構
悪性グリオーマ幹細胞マーカーALCAMを標的とした新規免疫療法の確立	藤本康倫	脳神経外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
動物モデルを用いた中枢性脳卒中後疼痛の病態および神経刺激療法の除痛機序の解明	細見晃一	脳神経外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
異常RNAの分解経路に着目した前頭側頭型認知症の病態解析	森康治	神経科・精神科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
麻酔薬による記憶障害のメカニズム解明とその治療法の開発	井浦晃	麻酔科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
虚血心不全への筋芽細胞シート移植に対する麻酔薬の影響	岩崎光生	麻酔科	910,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ベンゾジアゼピンによる感染症予後悪化機序の解明	大田典之	麻酔科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
造影剤腎症発生メカニズムおよび術中血液濾過透析の治療効果の検討	柴田晶カール	麻酔科	2,340,000	補	独立行政法人日本学術振興会
慢性の痛みに関する教育プログラムの構築	柴田政彦	麻酔科	1,262,000	補	文部科学省
CRPS患者の運動障害における脳機能異常	柴田政彦	麻酔科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ARDSに対する最適換気法と腎血流への影響の検討	藤野裕士	麻酔科	7,800,000	補	独立行政法人日本学術振興会
安静時fMRIを用いた膝関節全置換術後の遷延性術後痛発症を予測する手法の開発	松田陽一	麻酔科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
子宮頸部神経内分泌腫瘍の発生メカニズムの解析	上田豊	産科婦人科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
胎児期免疫寛容誘導の難治性皮膚疾患治療への応用	遠藤誠之	産科婦人科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
妊娠中の重篤な脳血管、心血管系合併症と妊娠高血圧症候群の関連、予知に関する研究	遠藤誠之	産科婦人科	500,000	委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
エクソソームによる情報伝達により制御される子宮内膜症発症機構の解明	橋本香映	産科婦人科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

統一管理方針下・多施設共同前方視研究による反復早産予防と早産病態細分化への挑戦	木村正	産科婦人科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
子宮頸がん予防ワクチン接種・非接種の若年女性に対する漫画を用いた子宮がん検診受診勧奨	木村正	産科婦人科	300,000	補	大阪府
不妊治療効率向上を目的とした月経周期ごとに子宮の着床能を評価する装置の開発	木村正	産科婦人科	5,259,000	補	文部科学省
骨髓由来免疫抑制細胞(MDSC)の腫瘍と妊娠における機能と制御に関する包括的研究	木村正	産科婦人科	15,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
細胞間情報伝達機構に焦点をあてた子宮内膜症発症のメカニズムの解明	澤田健二郎	産科婦人科	910,000	補	独立行政法人日本学術振興会
腹膜播種はなぜ治療困難なのか?-マイクロRNAとエクソソームに焦点を当てた解析	澤田健二郎	産科婦人科	4,030,000	補	独立行政法人日本学術振興会
胎児脳循環・胎児脳組織酸素分圧から見た分娩管理-胎児二酸化炭素分圧の重要性-	富松拓治	産科婦人科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
骨髓由来細胞・前転移ニッチに着目した卵巣癌のVEGF阻害薬耐性化メカニズムの検討	馬淵誠士	産科婦人科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
新しい初代3次元培養法を用いた子宮体癌の再発・播種に関するバイオマーカーの探索	吉野潔	産科婦人科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ヒト肺動脈内皮細胞・平滑筋細胞特異的マーカーの探索と疾患特異的iPS細胞への応用	石田秀和	小児科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ナトリウム利尿ペプチド受容体cGMP恒常産生変異による肺高血圧治療の多角的開発	小垣滋豊	小児科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
発達障害者の感覚特異性の脳磁図計測と再現モデルによる診断・評価・支援システム構築	下野九理子	小児科	2,600,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脳磁場計測によるローランドてんかん児の言語認知障害機構の解明	下野九理子	小児科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
精神・神経疾患バイオリンクにおける試料と情報の統合的管理と利活用推進のための基盤研究	谷池雅子	小児科	1,000,000	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
発達障害児(者)支援事業	谷池雅子	小児科	14,000,000	委	堺市
キッズサポートセンターさかいにおける発達障害児支援業務	谷池雅子	小児科	14,000,000	委	堺市
小児における睡眠の量・質の指標となる生化学的マーカーの開発	谷池雅子	小児科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
睡眠障害を持つ乳幼児に対する前向き介入研究	谷池雅子	小児科	3,510,000	補	独立行政法人日本学術振興会
先天性GPI欠損症の治療法と診断マーカーの開発	富永康仁	小児科	2,210,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

Glut-1欠損症の新規診断法・治療法の開発	青天目信	小児科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
原子間力顕微鏡を用いた中枢肺動脈のレオロジー解析による肺高血圧症の病態解明	成田淳	小児科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
小児がんの登録・中央診断の推進を基盤とする病態解明と先駆的診断方法開発	橋井佳子	小児科	900,000	委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
腸管免疫を利用した新規経口がんワクチンの開発	橋井佳子	小児科	10,000,000	補	文部科学省
重症心不全(小児・成人共)の治療体系確立のための臨床研究	橋井佳子	小児科	300,000	委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
胆汁酸産生制御機構もおけるSPRY2/LXRの役割に関する検討	長谷川泰浩	小児科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
胆道閉鎖症の発症および肝内病変の進行における腸内細菌の役割の検討	別所一彦	小児科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ヒトiPS細胞をもちいた小児悪性腫瘍に対する新規免疫療法の開発	宮村能子	小児科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
小児・若年がん長期生存者に対する妊娠性のエビデンスと生殖医療ネットワーク構築に関する研究	三善陽子	小児科	6,906,000	補	厚生労働省
自閉症発症におけるPGD2を鍵とした慢性神経炎症とシナプス形成異常連関の解明	毛利育子	小児科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ラット腎移植モデルを用いた新規臓器保存液の開発	阿部豊文	泌尿器科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
抗CD70抗体を用いた臓器移植における次世代免疫抑制療法の開発	市丸直嗣	泌尿器科	2,470,000	補	独立行政法人日本学術振興会
腎癌における血液中バイオマーカーとなるmiRNA網羅的探索と新規核酸治療薬の開発	植村元秀	泌尿器科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
腎癌組織培養由来エクソソームの網羅的タンパク質解析と新規血液バイオマーカーの同定	氏家剛	泌尿器科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
転移巣に注目した治療抵抗性尿路上皮癌に対する新規治療標的因子の探索	河嶋厚成	泌尿器科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
前立腺肥大症における5α還元酵素 type3の機能解析:新たな治療ターゲット	木内寛	泌尿器科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
非破壊イメージング手法による、移植関連腎障害評価手法の確立	高原史郎	泌尿器科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
臨床応用を目指した前立腺癌の発生・進展に対する環境因子の影響に関する研究	野々村祝夫	泌尿器科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
精液・精漿中のマイクロRNA解析による男性不妊症診断法の開発	福原慎一郎	泌尿器科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

前立腺癌由来エクソソームを用いた癌進展機構の解明および新規尿中マーカーの開発	藤田和利	泌尿器科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
高吸水性ポリマーを用いた肝動脈塞栓化学療法における次世代DDSの開発	大須賀慶悟	放射線診断・IVR科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
非小細胞肺癌の治療効果評価用三次元的CT体積測定法の検討とバイオマーカーの創出	富山憲幸	放射線診断・IVR科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
統計アトラスを用いたコンピュータ支援診断システム: MRIによる肝線維化診断法	堀雅敏	放射線診断・IVR科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脳動脈瘤 壁動態と瘤内血流の統合解析による脳動脈瘤壁脆弱性予測に関する研究	渡邊嘉之	放射線診断・IVR科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
生体イメージングによる放射線治療後のがん転移活性化経路の解明	大谷啓祐	放射線治療科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
子宮頸癌幹細胞における放射線抵抗性機序の解明と癌幹細胞標的放射線治療法の確立	小川和彦	放射線治療科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
微粒子腫瘍マーカとリアルタイム3次元透視を融合した次世代高精度粒子線治療技術の開発	小川和彦	放射線治療科	10,853,700	委	日本医療研究開発機構
前立腺癌に対する超導分割定位照射の確立に関する研究	鈴木修	放射線治療科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
導分割定位放射線治療における放射線生物学的最適化に関する研究	瀬尾雄二	放射線治療科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ビッグデータから放射線抵抗性遺伝子プロファイルを同定する	玉利慶介	放射線治療科	910,000	補	独立行政法人日本学術振興会
多発性骨髓腫の第一選択薬メルファランの治療効果予測と判定: PET画像診断法の開発	磯橋佳也子	核医学診療科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
慢性脳低灌流における血液脳関門物質輸送能とアミロイド β 蓄積: 脳機能障害との関連	加藤弘樹	核医学診療科	780,000	補	独立行政法人日本学術振興会
短寿命 α 線放射性核種(アスタチン)の体内分布と甲状腺癌集積性の評価	下瀬川恵久	核医学診療科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
医薬品の体内動態の種差: PETマイクロドーズ臨床試験による研究	畠澤順	核医学診療科	10,660,000	補	独立行政法人日本学術振興会
革新的PETプローブ分子の18FBPAの効率的合成法の開発とがん特異的集積能の検証評価	畠澤順	核医学診療科	4,333,628	委	公立大学法人大阪府立大学
PET薬剤自動合成装置の薬事承認取得に向けた神経膠腫患者における術前炭素11標識メチオニンPETの有用性に関する研究	畠澤順	核医学診療科	10,000,000	委	国立大学法人北海道大学
Alzheimer病の発症過程におけるアストロサイトのPETイメージング	渡部直史	核医学診療科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肺保護を目的として経肺圧(=気道内圧-食道内圧)を制御する新しい人工呼吸法の開発	内山昭則	集中治療部	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

悪性腫瘍における腫瘍幹細胞の可塑性を制御する因子の解析	池田純一郎	病理診断科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
腫瘍幹細胞を標的としたプラズマ技術を用いた新たな腫瘍制御法の確立	池田純一郎	病理診断科	3,510,000	補	独立行政法人日本学術振興会
樹状細胞におけるSema4Aの細胞内小胞輸送機構の解明	野島聰	病理診断科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
成人T細胞白血病のプロテオーム解析による病態と臨床標的分子の解明	本間圭一郎	病理診断科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
悪性リンパ腫の診断的研究のための免疫染色、in situ hybridization、clonality analysisの施行	森井英一	病理診断科	2,110,128	委	大阪リンパ腫研究会
	森井英一	病理診断科	2,437,526	補	文部科学省
腫瘍幹細胞の観点からみた腫瘍の多様性を制御する機構の解明	森井英一	病理診断科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
リンパ形質細胞性リンパ腫での腫瘍幹細胞の陽性マーカー同定及びその動態解析	和田直樹	病理診断科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
全身性炎症反応に対する新たな臓器障害戦略:新規若返り因子GDF11の有効性	小倉裕司	高度救命救急センター	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
侵襲時再生治療の新たな展開:幹細胞移植と新規若返り因子・長寿ホルモン補充の有効性	小倉裕司	高度救命救急センター	7,410,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ヒトiPS細胞を用いた血液脳閂門モデルによる意識障害関連物質の探索	嶋津岳士	高度救命救急センター	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
プレホスピタルでの心肺蘇生時における脳循環の解明	塙崎忠彦	高度救命救急センター	4,810,000	補	独立行政法人日本学術振興会
腫瘍隨伴性白血球增多を伴う子宮体癌の予後不良のメカニズムの検討	松本有里	産科婦人科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
PETおよびMRIを用いた腫瘍内低血流域の特性評価	巽光朗	放射線部	1,300,709	補	独立行政法人日本学術振興会
生体内関節の三次元運動力学的動態解析システムの開発と臨床応用	佐原亘	リハビリテーション部	3,946,785	補	独立行政法人日本学術振興会
舌切除後の機能回復を目指した舌他家移植について	磯村恵美子	歯科治療室	2,061,364	補	独立行政法人日本学術振興会
3D内視鏡を用いた消化管機能の計測	渡部健二	消化器内科	1,932,319	補	独立行政法人日本学術振興会
RANK系シグナルをターゲットとした脳梗塞における新規炎症制御ペプチドの開発	栗波仁美	老年・高血圧内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
塩分制限についての治療的患者教育に有効なシリアルゲームの開発	北村温美	中央クオリティマネジメント部	2,857,282	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

衝撃波外傷(爆傷)における呼吸・循環動態の変動に関する中素 神経の役割	大西光雄	高度救命救急センター	261,378	補	独立行政法人日本学術振興会
自己抗体に着目した新規腹部大動脈瘤発症機転の検討	中神太志	老年・高血圧内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
耐性菌時代における既存抗菌薬のリバイバル使用の検討	萩谷英大	感染制御部	2,136,692	補	独立行政法人日本学術振興会
大規模研究にて同定された統合失調症のリスク遺伝子の中間表 現型解析	藤本美智子	神経科・精神科	1,560,988	補	独立行政法人日本学術振興会
メタゲノム解析を用いた心不全における腸内細菌叢の評価	塚本泰正	循環器内科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
連続インピーダンスを用いた穿刺針位置確認システムの開発	大瀬千代	集中治療部	1,627,626	補	独立行政法人日本学術振興会
次世代シーケンサーを用いた急性脳炎・脳症診断への新たな取 り組み	吉矢和久	高度救命救急センター	2,340,000	補	独立行政法人日本学術振興会
材料表面マイクロ形状による骨関連細胞の分化と機能の制御	名井陽	未来医療センター	1,757,517	補	独立行政法人日本学術振興会
3D内視鏡を用いた消化管機能の計測	渡部健二	消化器内科	1,932,319	補	独立行政法人日本学術振興会
プロスタサイクリンアゴニストONO1301の肺再生治療の可能性	南正人	手術部	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
CRPSに対する集学的治療の効果と自発性脳活動異常との関連	植松弘進	麻酔科	1,470,974	補	独立行政法人日本学術振興会
新規肺炎診断法開発を目指した痰中好中球の細胞死の解析	吉田寿雄	感染制御部	1,549,370	補	独立行政法人日本学術振興会
新規実験系を用いたインテグリン機能制御分子の解析、同定とそ の応用	富山佳昭	血液・腫瘍内科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
セブシス・外傷に対するリンパ球・好中球の生体反応からみた免 疫学的病態解析法の確立	清水健太郎	高度救命救急センター	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
iTRAQ法を用いた網羅的膜蛋白質解析によるプラチナ耐性卵巣 癌の新規治療法の樹立	松崎慎哉	産科婦人科	1,960,946	補	独立行政法人日本学術振興会
オートファジー抑制因子Rubiconをターゲットとした生活習慣病関 連腎疾患の治療	高橋篤史	腎臓内科	2,470,000	補	独立行政法人日本学術振興会
植込型補助人工心臓接着術後周術期における血液凝固因子の 変動と止血効果の検討	堂前圭太郎	心臓血管外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
鉄過剰が免疫機能に及ぼす影響の解析	江副幸子	血液・腫瘍内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
血管内皮幹細胞システムを基軸とした糖尿病網膜症および加齢 黄斑変性症の病態解明	若林卓	眼科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

NAFLD肝再生不全におけるGabファミリー蛋白による肝保護と革新的治療法の開発	古田訓丸	消化器内科	2,730,000	補	独立行政法人日本学術振興会
蛋白一蛋白相互作用(PPI)阻害剤による神経疾患治療法の開発	佐々木勉	脳卒中センター	2,366,000	補	独立行政法人日本学術振興会
急性心筋梗塞発症後の口腔衛生状態と生命予後及び心血管事故発生との関連	砂真一郎	循環器内科	948,614	補	独立行政法人日本学術振興会
血管手術前後の各血管の血流量測定による脳内フローダイナミクスの解明	田中壽	放射線部	409,621	補	独立行政法人日本学術振興会
ベンゾジアゼピンによる感染症予後悪化機構の解明	大田典之	集中治療部	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
in vivoイメージング技術を用いた心筋組織の可視化による病態生理の解明	松浦良平	心臓血管外科	725,098	補	独立行政法人日本学術振興会
悪性腫瘍関連凝固異常症による脳血管障害の実態調査と新規バイオマーカーの探索	坂口学	神経内科・脳卒中科	1,414,481	補	独立行政法人日本学術振興会
細胞内シグナル伝達に着目した肝再生制御機構の解明と腫瘍細胞増殖制御への応用	浅岡忠史	消化器外科	385	補	独立行政法人日本学術振興会
形質転換と階層的複製能よりみた治療抵抗性肝癌に対する個別化治療についての研究	浅岡忠史	消化器外科	130,000	補	独立行政法人日本学術振興会
シトルリン化ヒストンH3を標的とした重症病態の制御	萩谷英大	感染制御部	26,000	補	独立行政法人日本学術振興会
シトルリン化ヒストンH3を標的とした重症病態の制御	竹川良介	高度救急救命センター	26,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脂肪のおいしさとストレスが引き起こす過食の分子生物学的機序の解明と制御	佐々木勉	脳卒中センター	130,000	補	独立行政法人日本学術振興会
電子カルテシステムを基盤とするCDISC標準での効率的臨床研究データ収集システムネットワークの構築とその有効性の検証	松村泰志	医療情報部	104,400,194	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
再生医療等臨床研究推進拠点病院の確立	野口眞三郎	医学部附属病院	98,851,374	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
再生医療等臨床研究を支援する再生医療ナショナルコンソーシアムの実現	西田幸二	未来医療開発部	28,465,862	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
TR実践のための戦略的高機能拠点整備	澤芳樹	医学部附属病院	279,824,446	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
革新的医薬品・医療機器等の創出促進に向けた安全性を確保した臨床研究の推進	野口眞三郎	医学部附属病院	218,919,217	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
中央治験審査委員会・中央倫理審査委員会基盤整備事業	野口眞三郎	医学部附属病院	20,000,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
中央治験審査委員会・中央倫理審査委員会スタンダードモデル構築事業	野口眞三郎	医学部附属病院	19,285,947	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

小計

国際共同臨床研究実施推進拠点	野口眞三郎	医学部附属病院	101,952,252	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
関節鏡視下自己骨髓間葉系幹細胞移植による関節軟骨欠損修復－多施設共同、非盲検、ランダム化、並行比較試験	名井陽	未来医療センター	1,061,413	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
脳虚血及び認知症モデルにおける炎症性細胞の神経細胞障害に与える影響について	佐々木勉	神経内科・脳卒中科	1,950,000	委	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所
胃癌腹膜播種に対する5-アミノレブリン酸を用いた光力学的診断の有用性に関する研究	土岐祐一郎	消化器外科	14,434,885	委	公益社団法人日本医師会治験促進センター
治験の実施に関する研究[5ALA]	土岐祐一郎	消化器外科	2,446,243	委	公益社団法人日本医師会治験促進センター
高精度の予測に基づく予防医療の実現に向けた疾患ビッグデータ主導型イノベーションハブ(関節炎の患者データの取得とデータの構造化法の開発)	熊ノ郷淳	免疫・アレルギー内科	17,765,000	委	国立研究開発法人理化学研究所
間脳下垂体機能障害に関する長期予後調査研究	大月道夫	内分泌・代謝内科	400,000	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
心臓移植レシピエント心臓弁を用いた脱細胞化ヒト心臓弁の移植に関する安全性及び有効性の研究	上野高義	心臓血管外科	939,900	委	公益社団法人日本医師会治験促進センター
「持続可能なネットワーク型中部先端医療開発拠点の形成」重症心不全患者に対するティラーメイド方式心臓サポートネット開発	澤芳樹	心臓血管外科	6,754,296	委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
国産医療機器創出促進基盤整備等事業	中島清一	消化器外科	6,636,881	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
非小細胞肺癌手術適応症例に対する周術期hANP投与の多施設共同ランダム化第II相比較試験	奥村明之進	呼吸器外科	1,080,000	委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
遅発型ポンペ病患者ハイリスクスクリーニング調査研究	高橋正紀	神経内科・脳卒中科	86,400	委	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
治療効果判定におけるPETとその他の画像診断との比較検討に関する研究	異光朗	放射線部	700,000	委	国立研究開発法人国立がん研究センター

小計

13

372

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Sakamoto Y, Kioka H, Hashimoto R et al.	循環器内科	Cardiogenic shock caused by a left midventricular obstruction during refeeding in a patient with anorexia nervosa.	Nutrition2017;35:148	Original Article
2	Nakagawa A, Naito AT, Sumida T et al.	循環器内科	Activation of endothelial β - catenin signaling induces heart failure.	Scientific reports2016;6:25009	Original Article
3	Wang Q, Oka T, Yamagami K et al.	循環器内科	An EP4 receptor agonist inhibits cardiac fibrosis through activation of PKA signaling in hypertrophied heart	International heart journal2017;58:107-114	Original Article
4	Araki R, Matsuzaki T, Nakamura A et al.	循環器内科	Development of a novel one-step production system for injectable liposomes under GMP.	Pharmaceutical development and technology2017; online	Original Article
5	Yamato M, Matsuzaki T, Araki R et al.	循環器内科	RNA Aptamer Binds Heparin-Binding Epidermal Growth Factor-Like Growth Factor with High Affinity and Specificity and Neutralizes Its Activity.	International Journal of Gerontology2017;doi: 10.1016/j.ijge.2017.03.00 6	Original Article

6	Masuda D, Yamashita S.	循環器内科	Enhanced Intestinal Absorption of Cholesterol along with Increased Chylomicron Remnants for De novo Progression of Coronary Stenosis	J Atheroscler Thromb 2017;24:120–122	Review
7	Masuda D, Yamashita S.	循環器内科	Postprandial hyperlipidemia and remnant lipoproteins	J Atheroscler Thromb 2017;24:95–109	Review
8	Kaimori JY, Isaka Y, Hatanaka M, et al.	医学系研究科 先端移植基盤医療学	Diffusion Tensor Imaging MRI With Spin-Echo Sequence and Long-Duration Measurement for Evaluation of Renal Fibrosis in a Rat Fibrosis Model.	Transplant Proc. 2017 Jan – Feb;49(1):145–152	Original Article
9	Sakaguchi Y, Hamano T, Nakano C,et al.	腎疾患統合医療学寄附講座	Association between Density of Coronary Artery Calcification and Serum Magnesium Levels among Patients with Chronic Kidney Disease	Plos One. 2016 Sep; 11(9)0163673	Original Article
10	Sakaguchi Y, Iwatani H, Hamano T, et al.	腎疾患統合医療学寄附講座	Magnesium modulates the association between serum phosphate and the risk of progression to end-stage kidney disease in patients with non-diabetic chronic kidney disease	Kidney Int. 2015; 88: 833–42	Original Article
11	Hashimoto N, Matsui I, Namba T, et al.	腎臓内科	An unusual case of acute kidney injury after colonoscopy.	Kidney Int. 2016 Sep; 90(3):711	Original Article
12	Yamamoto T, Takabatake Y, Kimura T, et al.	腎臓内科	Time-dependent dysregulation of autophagy: Implications in aging and mitochondrial homeostasis in the kidney proximal tubule.	Autophagy.2016 May;12(5):801–13.	Original Article

13	Isaka Y, Takabatake Y, Takahashi A, et al.	腎臓内科	Hyperuricemia- induced inflammasome and kidney diseases.	Nephrol Dial Transplant. 2016 Jun;31(6):890-6	Original Article
14	Mizui M, Tsokos GC.	腎臓内科	Low-Dose IL-2 in the Treatment of Lupus.	Curr Rheumatol Rep. 2016 Nov;18(11):68	Original Article
15	Yamamoto T, Takabatake Y, Takahashi A, et al.	腎臓内科	High-Fat Diet- Induced Lysosomal Dysfunction and Impaired Autophagic Flux Contribute to Lipotoxicity in the Kidney.	J Am Soc Nephrol. 2017 May;28(5):1534-1551	Original Article
16	Isaka Y.	腎臓内科	Epidermal growth factor as a prognostic biomarker in chronic kidney diseases.	Ann Transl Med. 2016;4:S62	Original Article
17	Shinzawa M, Tanaka S, Tokumasu H, et al.	腎臓内科	Maternal Smoking during Pregnancy, Household Smoking after the Child's Birth, and Childhood Proteinuria at Age 3 Years.	Clin J Am Soc Nephrol. 2017 Feb;12(2):253-260	Original Article
18	Hamano T, Fujii N, Hayashi T, et al.	腎疾患統合医療学寄附講座	Thresholds of iron markers for iron deficiency erythropoiesis-finding of the Japanese nationwide dialysis registry.	Kidney Int Suppl. 2015 Jun;5(1):23-32	Original Article
19	Hamano T, Sakaguchi Y, Fujii N, et al.	腎疾患統合医療学寄附講座	Clinical features of CKD-MBD in Japan: cohort studies and registry.	Clin Exp Nephrol. 2017 Mar;21(Suppl 1):9-20	Original Article

20	Kai Y, Hikita H, Morishita N, et al.	消化器内科学	Baseline quasispecies selection and novel mutations contribute to emerging resistance-associated substitutions in hepatitis C virus after direct-acting antiviral treatment.	Scientific Reports. 2017 Jan (オンライン)	Original Article
21	Shinzaki S, Matsuoka K, Iijima H, et al.	消化器内科学	Leucine-rich Alpha-2 Glycoprotein is a Serum Biomarker of Mucosal Healing in Ulcerative Colitis.	Journal of Crohn's and Colitis. 2017 Jan; 11: 84-91.	Original Article
22	Yoshioka T, Shigekawa M, Yamai T, et al.	消化器内科学	The safety and benefit of pancreatic juice cytology under ERCP in IPMN patients.	Pancreatology. 2016 Nov-Dec; 16: 1020-1027.	Original Article
23	Tahata Y, Hiramatsu N, Oze T, et al.	消化器内科学	Impact of ribavirin dosage in chronic hepatitis C patients treated with simeprevir, pegylated interferon plus ribavirin combination therapy.	Journal of Medical Virology. 2016 Oct; 88: 1776-1784.	Original Article
24	Hiyama S, Iijima H, Kawai S, et al.	消化器内科学	Narrow-band imaging with magnifying endoscopy for Peyer's patches is useful in predicting the recurrence of remissive patients with ulcerative colitis.	Intest Research. 2016 Oct; 14: 314-321.	Original Article
25	Ninomiya H, Hirata A, Kozawa J, et al.	糖尿病・内分泌・代謝内科	Treatment of Mitochondrial Diabetes with a Peroxisome Proliferator-activated Receptor (PPAR)-gamma Agonist	Intern Med. 2016;55:1143-7.	Case report
26	Katakami N	糖尿病・内分泌・代謝内科	Utility of Carotid Wall Shear Stress as a Predictor of Coronary Atherosclerosis.	J Atheroscler Thromb. 2016;23:290-1.	Others

27	Katakami N,Mita T,Shiraiwa T,etal.	糖尿病・内分泌・代謝内科	Sitagliptin attenuates the progression of carotid intima-media thickening in insulin-treated patients with type 2 diabetes mellitus: The Sitagliptin Preventive study of Intima-media thickness Evaluation (SPIKE): a randomized controlled trial.	Diabetes Care.2016;39:455-64	Original Article
28	Katakami N,Mita T,Yoshii H ,etal.	糖尿病・内分泌・代謝内科	Alogliptin, a dipeptidyl peptidase-4 inhibitor, prevents the progression of carotid atherosclerosis in patients with type 2 diabetes mellitus: The Study of Preventive Effects of Alogliptin on Diabetic Atherosclerosis (SPEAD-A)	Diabetes Care.2016;39:139-48	Original Article
29	Takahara M,Shiraiwa T,Abe K,etal	糖尿病・内分泌・代謝内科	Variations in the associations of taste-related words with foods in diabetic patients in Japan according to Gender, age, and geographic variation in association of taste-related words with foods in diabetic patients in Japan: a multicenter study conducted in seven regions of Japan.	Diabetol Int.2016;3:314-320	Original Article
30	Takahara M,Shiraiwa T,Ogawa N,etal.	糖尿病・内分泌・代謝内科	Clinical backgrounds associated with discrepancy between subjective and objective assessments of medication adherence in Japanese type 2 diabetic patients.	Diabetol Int.2016;7:398-403.	Original Article
31	Takahara M,Shiraiwa T,Katakami N,etal.	糖尿病・内分泌・代謝内科	Preference in time of insulin injection in type 2 diabetic patients treated with once-daily long-acting insulin analog.	Diabetes Obes Metab.2016;18:1098-9	Letter

32	Takahara M, Shiraiwa T, Ogawa N, et al.	糖尿病・内分泌・代謝内科	Patient Perspectives on Combination Therapy of a Once- weekly Oral Medication Plus Daily Medication for Lifestyle-related Chronic Diseases.	Intern Med, 2017;56:615- 620	Original Article
33	Obata Y, Maeda N, Yamada Y, et al.	糖尿病・内分泌・代謝内科	Impact of Visceral Fat on Gene Expression Profile in Peripheral Blood Cells in Obese Japanese Subjects.	Cardiovasc Diabetol. 2016;15:159.	Original Article
34	Nagao H, Nishizawa H, Bamba T, et al.	糖尿病・内分泌・代謝内科	Increased Dynamics of Tricarboxylic Acid Cycle and Glutamate Synthesis in Obese Adipose Tissue: In vivo Metabolic Turnover Analysis.	J. Biol. Chem. 2017;292:446 9-4483	Original Article
35	Mukai K, Kitamura T, Tamada D, et al.	糖尿病・内分泌・代謝内科	Relationship of each anterior pituitary hormone deficiency to the size of non- functioning pituitary adenoma in the hospitalized patients.	Endocr J. 2016;63:965-76.	Original Article
36	Otsuki M, kitamura T, Tamada D, et al.	糖尿病・内分泌・代謝内科	Incompatibility between fasting and postprandial plasma glucose in patients with Cushing's syndrome.	Endocr J. 2016;63:1017- 23.	Original Article
37	Baden M, Imagawa A, Iwahashi H	糖尿病・内分泌・代謝内科	Risk factors for sudden death and cardiac arrest at the onset of fulminant type 1 diabetes mellitus.	Diabetology International	Original Article
38	Higashiguchi M, Nagatomo I, Kijima T, et al.	呼吸器内科	Clarifying the biological significance of the CHK2 K373E somatic mutation discovered in The Cancer Genome Atlas database	FEBS lett. 2016 Dec; 590 (23):4275-4286	Original Article

39	Hamano Y, Kida H, Ihara S, et al.	呼吸器内科	Classification of idiopathic interstitial pneumonias using anti-myxovirus resistance-protein 1 autoantibody	Sci Rep. 2017 Feb; 23; 7:43201	Original Article
40	Miyake K, Ohta T, Nakayama H, et al.	呼吸器内科	CAPS1 RNA Editing Promotes Dense Core Vesicle Exocytosis	Cell Rep. 2016 Nov; 17(8):2004-2014	Original Article
41	Koba T, Kijima T, Takimoto T, et al.	呼吸器内科	Rapid intracranial response to osimertinib, without radiotherapy, in nonsmall cell lung cancer patients harboring the EGFR T790M mutation: Two Case Reports	Medicine (Baltimore). 2017 Feb; 96 (6):e6087	Case report
42	Higashiguchi M, Kijima T, Morimura O, et al.	呼吸器内科	Assessment of chemotherapy strategy using bevacizumab for non-squamous non-small cell lung cancer in a real-world setting: A multi-institutional observational study	Cancer Treat Commun. 2016; 5:1-10	Original Article
43	Maeda Y, Kurakawa T, Umemoto E et al.	免疫内科	Dysbiosis contributes to arthritis development via activation of autoreactive T cells in the intestine. Arthritis Rheumatol.	Arthritis Rheumatol. 2016 Nov;68(11):2646-2661.	Original Article
44	Maeda Y, Kumanogoh A, Takeda K	免疫内科	Altered composition of gut microbiota in rheumatoid arthritis patients.	Nihon Rinsho Meneki Gakkai Kaishi. 2016;39(1):59-63.	Review
45	Hosen N, Maeda T, Hashii Y et al.	免疫内科	Wilms tumor 1 peptide vaccination after hematopoietic stem cell transplant in leukemia patients.	Stem Cell Investig. 2016 Dec 9;3:90.	Review

46	Yokota T, Kanakura Y	大阪大学 医学系研究科 血液・腫瘍内科学	Genetic abnormalities associated with acute lymphoblastic leukemia.	Cancer Science. 2016 Jun; 107(6): 721-5/ Published online 2016 Apr 27	Review
47	Kato H, Nakazawa Y, Kurokawa Y, et al.	大阪大学 医学系研究科 血液・腫瘍内科学	Human CalDAG-GEFI deficiency increases bleeding and delays α IIb β 3 activation.	Blood. 2016 Dec; 128(23):2729-2733/ Epub 2016 Sep 23	Case report
48	Takamori H, Nishiura N, Masaie H, et al.	大阪大学 医学系研究科 血液・腫瘍内科学	Effectiveness of palonosetron in prevention of CHOP induced nausea and vomiting in patients with malignant lymphoma.	Cancer Treatment and Research Communications. 2016 Aug; Volume 9:88-91/ Available online 2016 Aug	Original Article
49	Nishiura N, Ujimoto D, Fujita J, et al.	大阪大学 医学系研究科 血液・腫瘍内科学	Autoimmune bullous disease and Hashimoto's disease complicated by acquired hemophilia A.	Rinsho Ketsueki, 2017 Mar; 58(3):233-238	Case report
50	Kida T, Tanimura A, Ono A, et al.	大阪大学 医学系研究科 血液・腫瘍内科学	Lymphoplasmacytic lymphoma accompanied by transformed diffuse large B-cell lymphoma with the MYD88L265P mutation.	Rinsho Ketsueki, 2017 Feb; 58(2):155-160	Case report
51	Shuko Takeda, Caitlin Commins, Sarah L. DeVos, 他	老年・高血圧内科	Seed-competent HMW tau species accumulates in the cerebrospinal fluid of Alzheimer's disease mouse model and human patients.	Ann Neurol. 2016 Sep;80(3):355-67. doi: 10.1002/ana.24716. Epub 2016 Aug 3.	Original Article
52	Shuko Takeda and Ryuichi Morishita.	老年・高血圧内科	Angiotensin Receptor Blocker Protects Alzheimer's Disease Brain From Ischemic Insult.	Am J Hypertens. 2017 Feb;30(2):110-111. doi: 10.1093/ajh/hpw158. Epub 2016 Dec 8.	Others

53	Kurinami H, Shimamura M, Nakagami H, 他	総合診療部	A Novel Therapeutic Peptide as a Partial Agonist of RANKL in Ischemic Stroke.	Sci Rep. 2016 Nov 29;6:38062. doi: 10.1038/srep38062.	Original Article
54	Hongyo K, Ito N, Yamamoto K, Yasunobe Y, 他	老年・高血圧内科	Factors associated with the severity of obstructive sleep apnea in the elderly.	Geriatr Gerontol Int. 2017. Apr;17(4):614-621.	Original Article
55	Maekawa Y, Sugimoto K, Yamasaki M, 他	老年・高血圧内科	Comprehensive Geriatric Assessment is a useful predictive tool for postoperative delirium after gastrointestinal surgery in old-old adults.	Geriatr Gerontol Int. 2016 Sep;16(9):1036-42.	Original Article
56	Nakanishi M1, Nakae A2, Kishida Y1, et al.	大阪大学大学院医学系研究科 漢方医学寄附講座	Go-sha-jinki-Gan (GJG) ameliorates allodynia in chronic constriction injury model mice via suppression of TNF- α expression in the spinal cord.	Molecular Pain. 2016 June; 12: 1-16	Original Article
57	Yoshioka D, Toda K, Hidaka T, et al..	大阪大学医学部附属病院心臓血管外科	Anticoagulation therapy for a LVAD patient with acquired warfarin resistance.	J Artif Organs, 2017 Mar (オンライン)	Original Article
58	Kido T, Ueno T, Taira M, et al.	大阪大学医学部附属病院心臓血管外科	Stroke Volume Ratio Predicts Redilatation of the Right Ventricle After Pulmonary Valve Replacement.	Ann Thorac Surg. 2017 Aug;104:698-703.	Original Article
59	Ishida M, Sakaguchi T, Miyagawa S, et al.	大阪大学医学部附属病院心臓血管外科	Right Ventricular Outflow Tract Obstruction Due to Immunoglobulin G4-Related Disease.	Ann Thorac Surg. 2017 Mar;103:e235-e237.	Original Article

60	Nakamura T, Toda K, Kuratani T, et al.	大阪大学医学部附属病院心 臓血管外科	The impact of age on the postoperative response of the diastolic function and left ventricular mass regression after surgical or transcatheter aortic valve replacement for severe aortic	Surg Today. 2017, 47(6):770-776.	Original Article
61	Nakamura Y, Toda K, Nakamura T, et al.	大阪大学医学部附属病院心 臓血管外科	Curative surgery for gastric cancer in a patient with an implantable left ventricular assist device.	J Artif Organs. 2017, 20(2):170-173	Original Article
62	Kido T, Nishi H, Toda K, et al.	大阪大学医学部附属病院心 臓血管外科	Predictive factors for responders to tolvaptan in fluid management after cardiovascular surgery	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2017, 65(2):110- 116.	Original Article
63	Nakamura T, Toda K, Miyagawa S, et al.	大阪大学医学部附属病院心 臓血管外科	Symptomatic peripheral artery disease is associated with decreased long- term survival after coronary artery bypass:	Surg Today. 2016, 46(11):1334-40.	Original Article
64	Shudo Y, Miyagawa S, Ohkura H, et al.	大阪大学医学部附属病院心 臓血管外科	Adipose tissue- derived multi-lineage progenitor cells improve left ventricular dysfunction in porcine ischemic cardiomyopathy model.	J Heart Lung Transplant. 2017, 36(2):237-239.	Original Article
65	Shijo T, Kuratani T, Torikai K, et al.	大阪大学医学部附属病院心 臓血管外科	Thoracic endovascular aortic repair for degenerative distal arch aneurysm can be used as a standard procedure in high- risk patients.	Eur J Cardiothorac Surg. 2016, 50(2):257-63	Original Article

66	Kashiyama N, Miyagawa S, Fukushima S, et al.	大阪大学医学部附属病院心 臓血管外科	Development of PET Imaging to Visualize Activated Macrophages Accumulated in the Transplanted iPSC-Derived Cardiac Myocytes of Allogeneic Origin for Detecting the Immune Rejection of Allogeneic Cell	PLoS One. 2016 Dec 8;11(12):e0165748	Original Article
67	Ozawa H, Miyagawa S, Fukushima S, et al.	大阪大学医学部附属病院心 臓血管外科	Sirtuin1 Regulates the Stem Cell Therapeutic Effects on Regenerative Capability for Treating Severe Heart Failure in a Juvenile Animal Model.	Ann Thorac Surg. 2016 Sep;102(3):803-812.	Original Article
68	Kitahara M, Miyagawa S, Fukushima S, et al.	大阪大学医学部附属病院心 臓血管外科	Biodegradable vs Nonbiodegradable Cardiac Support Device for Treating Ischemic Cardiomyopathy in a Canine Heart.	Semin Thorac Cardiovasc Surg. 2017, 29(1):51-61.	Original Article
69	Ueno T, Ozawa H, Taira M, et al.	大阪大学医学部附属病院心 臓血管外科	Pulmonary Valve Replacement With Fresh Decellularized Pulmonary Allograft for Pulmonary Regurgitation After Tetralogy of Fallot, Repair 繼 First Case Report in Japan.	Circ J. 2016;80(4):1041-3.	Case report
70	Masuda S, Miyagawa S, Fukushima S, et al.	大阪大学医学部附属病院心 臓血管外科	Expandable progenitors from induced pluripotent stem cells.	Nat Rev Cardiol. 2016 Oct;13:574.	Others
71	Masuda S, Miyagawa S, Nakamura T, et al.	大阪大学医学部附属病院心 臓血管外科	Brentuximab vedotin for CD30-positive tumours.	Lancet Oncol. 2016 Sep;17:e371.	Others

72	Okumura M	呼吸器外科	Trends and current status of general thoracic surgery in Japan revealed by review of nationwide databases.	J Thorac Dis 2016 Aug	Original Article
73	Shintani Y, Fujiwara A, Kimura T, 他	呼吸器外科	IL-6 Secreted from Cancer-Associated Fibroblasts Mediates Chemoresistance in NSCLC by Increasing Epithelial-Mesenchymal Transition Signaling.	J Thorac Oncol. 2016 Sep	Original Article
74	Kanzaki R, Naito H, Kise K, 他	呼吸器外科	PSF1 (Partner of SLC35F5) is a Prognostic Biomarker in Patients with Non-small Cell Lung Cancer Treated with Surgery Following Preoperative Chemotherapy or Chemoradiotherapy.	Ann Surg Oncol 2016 Nov	Original Article
75	Kanzaki R, Shintani Y, Inoue M, 他	呼吸器外科	Late-Onset Pulmonary Fistula after Resection of Pulmonary Metastasis from Colorectal Cancer Following Perioperative Chemotherapy with Bevacizumab.	Ann Thorac Cardiovasc Surg	Case report
76	Momozane T, Inoue M, Shintani Y, 他	呼吸器外科	Trimodality Therapy for an Advanced Thymic Carcinoma With Both Aorta and Vena Cava Invasion.	Ann Thorac Surg. 2016 Aug	Case report
77	Yamamoto Y, Kodama K, Maniwa T, 他	呼吸器外科	Anaplastic lymphoma kinase-positive squamous cell carcinoma of the lung: A case report	Mol Clin Oncol. 2016 Jul	Case report
78	Yamamoto Y, Kodama K, Maniwa T, 他	呼吸器外科	Successful treatment of advanced thymic carcinoma with lymph node and pleural metastases: A case report	Mol Clin Oncol. 2016 Nov	Case report

79	Kanzaki R, Kimura T, Kawamura T, 他	呼吸器外科	Surgery for malignant pulmonary nodules in patients with a history of oesophageal cancer.	Interact Cardiovasc Thorac Surg 2017 Mar	Original Article
80	Kusumoto H, Shintani Y, Kanzaki R, 他	呼吸器外科	Podocalyxin influences malignant potential by controlling epithelial-mesenchymal transition in lung adenocarcinoma.	Cancer Sci. 2017 Mar	Original Article
81	Takiguchi S., Miyazaki Y., Murakami K., et al.	大阪大学消化器外科	Laparoscopic lymphadenectomy around the left renal vein (16a2lat) by tunneling under the pancreas for advanced Siewert type II adenocarcinoma.	Surg Today. 2016 Sep;46(9):1108-13	Original Article
82	Takiguchi S., Miyazaki Y., Shinno N., et al.	大阪大学消化器外科	Laparoscopic mediastinal dissection via an open left diaphragm approach for advanced siewert type II adenocarcinoma.	Surg Today. 2016 Jan;46(1):129-134	Original Article
83	Takiguchi S., Miyazaki Y., Takahashi T., et al.	大阪大学消化器外科	Impact of synthetic ghrelin administration for patients with severe body weight reduction more than 1 year after gastrectomy: A phase II clinical trial.	Surg Today. 2016 Mar;46(3):379-85	Original Article
84	Eguchi H., Yamaue H, Unno M., et al.	Original Article	Clinicopathological characteristics of young patients with pancreatic cancer: an analysis of data from pancreatic cancer registry of Japan pancreas society.	Pancreas. 2016 Nov;45(10):1411-1417.	Original Article
85	Miyata H., Yamasaki M., Makino T., et al.	大阪大学消化器外科	Impact of number of [(18)F]fluorodeoxyglucose-PET-positive lymph nodes on survival of patients receiving neoadjuvant chemotherapy and surgery for oesophageal cancer.	Br J Surg. 2016 Jan;103(1):97-104	Original Article

86	Mizushima., Nakajima K., Takeyama H., et al.	大阪大学消化器外科	Single-incision laparoscopic surgery for stricturing and perforating crohn's disease.	Surg Today. 2016 Feb;46(2):203-8	Original Article
87	Mizushima., Takahashi H., Takeyama H., et al.	大阪大学消化器外科	A clinical trial of autologous adipose-derived regenerative cell transplantation for a postoperative enterocutaneous fistula.	Surg Today. 2016 Jul;46(7):835-42	Original Article
88	Marubashi S., Nagano H., Eguchi H., et al.	大阪大学消化器外科	Minimum graft size calculated from preoperative recipient status in living donor liver transplantation.	Liver Transpl. 2016 May;22(5):599-606	Original Article
89	Kobayashi S., Takeda Y., Nakahira S., et al.	大阪大学消化器外科	Fibrin sealant with polyglycolic acid felt vs fibrinogen-based collagen fleece at the liver cut surface for prevention of postoperative bile leakage and hemorrhage: A prospective, randomized, controlled study.	J Am Coll Surg. 2016 Jan;222(1):59-64	Original Article
90	Hata T., Kudo T., Sakai D., et al.	大阪大学消化器外科	Impact of capecitabine and S-1 on anticoagulant activity of warfarin in patients with gastrointestinal cancer.	Cancer Chemother Pharmacol. 2016 Aug;78(2):389-96	Original Article
91	Kurokawa Y., Boku N., Yamaguchi T., et al.	大阪大学消化器外科	Inter-institutional heterogeneity in outcomes of chemotherapy for metastatic gastric cancer: correlative study in the JCOG9912 phase III trial.	ESMO Open. 2016 Feb 8;1(1):e000031	Original Article

92	Kurokawa Y., Matsuda T., Yoshikawa T., et al.	大阪大学消化器外科	Clinicopathological Characteristics and Prognostic Factors of Patients with Siewert Type II Esophagogastric Junction Carcinoma: A Retrospective Multicenter Study.	World J Surg. 2016 Jul;40(7):1672-9	Original Article
93	Wada H., Eguchi H., Noda T., et al.	大阪大学消化器外科	Selection criteria for hepatic resection in intermediate-stage (BCLC stage B) multiple hepatocellular carcinoma.	Surgery. 2016 Nov;160(5):1227-1235	Original Article
94	Nishimura J., Hasegawa J., Ogawa Y., et al.	大阪大学消化器外科	(18)F- Fluorodeoxyglucose positron emission tomography ((18)F- FDG PET) for the early detection of response to neoadjuvant chemotherapy for locally advanced rectal cancer.	Surg Today. 2016 Oct;46(10):1152-8	Original Article
95	Akita H., Ritchie SA., Takemasa I., et al.	大阪大学消化器外科	Serum metabolite profiling for the detection of pancreatic cancer: Results of a large independent validation study.	Pancreas. 2016 Nov;45(10):1418-1423	Original Article
96	Haraguchi., Ikeda M., Miyake M., et al.	大阪大学消化器外科	Colonic stenting as a bridge to surgery for obstructive colorectal cancer: Advantages and disadvantages.	Surg Today. 2016 Nov;46(11):1310-7	Original Article
97	Makino T., Yamasaki M., Miyazaki Y., et al.	大阪大学消化器外科	Short- and long-term outcomes of larynx- preserving surgery for cervical esophageal cancer: Analysis of 100 consecutive cases.	Ann Surg Oncol. 2016 Dec;23(Suppl 5):858-865	Original Article

98	Makino T., Yamasaki M., Miyata H., et al.	大阪大学消化器外科	Solitary lymph node recurrence of esophageal squamous cell carcinoma: Surgical failure or systemic disease?	Ann Surg Oncol. 2016 Jun;23(6):2087-93	Original Article
99	Uemura M., Kim HM., Ikeda M., et al.	大阪大学消化器外科	Long-term outcome of adrenalectomy for metastasis resulting from colorectal cancer with other metastatic sites: A report of 3 cases.	Oncol Lett. 2016 Sep;12(3):1649-1654	Case report
100	Uemura M., Kim HM., Hata T., et al.	大阪大学消化器外科	First-line cetuximab-based chemotherapies for patients with advanced or metastatic KRAS wild-type colorectal cancer.	Mol Clin Oncol. 2016 Aug;5(2):375-379	Original Article
101	Miyazaki Y., Nakajima K., Hosaka M., et al.	大阪大学消化器外科	A novel endoscopic catheter for "laparoscopy-like" irrigation and suction: Its research and development process and clinical evaluation.	J Laparoendosc Adv Surg Tech A. 2016 Dec;26(12):943-949	Original Article
102	Miyazaki Y., Takiguchi S., Takahashi T., et al.	大阪大学消化器外科	Treatment of gastric outlet obstruction that results from unresectable gastric cancer: Current evidence.	World J Gastrointest Endosc. 2016 Feb 10;8(3):165-72	Original Article
103	Takahashi , Hirota M., Takahashi T., et al.	大阪大学消化器外科	Simultaneous automatic insufflation and smoke-evacuation system in flexible gastrointestinal endoscopy.	Endoscopy. 2016 Jun;48(6):579-83	Original Article
104	Takahashi , Suzuki Y., Nishimura J., et al.	大阪大学消化器外科	Characteristics of carbonic anhydrase 9 expressing cells in human intestinal crypt base.	Int J Oncol. 2016 Jan;48(1):115-22	Original Article

105	Tomimaru Y., Eguchi H., Gotoh K., et al.	大阪大学消化器外科	Platelet count is more useful for predicting posthepatectomy liver failure at surgery for hepatocellular carcinoma than indocyanine green clearance test.	J Surg Oncol. 2016 Apr;113(5):565-9	Original Article
106	Tanaka K., Miyata H., Sugimura K., et al.	大阪大学消化器外科	Negative influence of programmed death-1-ligands on the survival of esophageal cancer patients treated with chemotherapy.	Cancer Sci. 2016 Jun;107(6):726-33	Original Article
107	Hamakawa T., Kurokawa Y., Mikami J., et al.	大阪大学消化器外科	Risk factors for postoperative complications after gastrectomy in gastric cancer patients with comorbidities.	Surg Today. 2016 Feb;46(2):224-8	Original Article
108	Kajihara J., Tomimaru Y., Eguchi H., et al.	大阪大学消化器外科	The clinical impact of transcatheter arterial chemoembolization (TACE)-induced c-Met upregulation on TACE refractoriness in hepatocellular carcinoma.	Dig Dis Sci. 2016 Jun;61(6):1572-81	Original Article
109	Osawa H., Takahashi H., Nishimura J., et al.	大阪大学消化器外科	Full-length LGR5-positive cells have chemoresistant characteristics in colorectal cancer.	Br J Cancer. 2016 May 24;114(11):1251-60	Original Article
110	Mikami J., Kurokawa Y., Takahashi T., et al.	大阪大学消化器外科	Antitumor effect of antiplatelet agents in gastric cancer cells: An in vivo and in vitro study.	Gastric Cancer. 2016 Jul;19(3):817-26	Original Article
111	Mikami J., Takiguchi S., Miyazaki Y., et al.	大阪大学消化器外科	Novel management of postoperative pain using only oral analgesics after LADG.	Surg Today. 2016 Jan;46(1):117-122	Original Article

112	Saito T., Nishikawa H., Wada H., et al.	大阪大学消化器外科	Two FOXP3(+)CD4(+) T cell subpopulations distinctly control the prognosis of colorectal cancers.	Nat Med. 2016 Jun;22(6):679-84	Original Article
113	Sawada G., Niida A., Uchi R., et al.	大阪大学消化器外科	Genomic landscape of esophageal squamous cell carcinoma in a Japanese population.	Gastroenterology. 2016 May;150(5):1171-1182	Original Article
114	Fukuda S., Nakajima K., Miyazaki Y., et al.	大阪大学消化器外科	Laparoscopic surgery for esophageal achalasia: Multiport vs single-incision approach.	Asian J Endosc Surg. 2016 Feb;9(1):14-20	Original Article
115	Hamabe A., Takemasa I., Hata T., et al.	大阪大学消化器外科	Patient body image and satisfaction with surgical wound appearance after reduced port surgery for colorectal diseases.	World J Surg. 2016 Jul;40(7):1748-54	Original Article
116	Hasegawa S, Eguchi H., Tomokuni A., et al.	大阪大学消化器外科	Pre-treatment neutrophil to lymphocyte ratio as a predictive marker for pathological response to preoperative chemoradiotherapy in pancreatic cancer.	Oncol Lett. 2016 Feb;11(2):1560-1566	Original Article
117	Hasegawa S, Nagano H., Konno M., et al.	大阪大学消化器外科	A crucial epithelial to mesenchymal transition regulator, Sox4/Ezh2 axis is closely related to the clinical outcome in pancreatic cancer patients.	Int J Oncol. 2016 Jan;48(1):145-52	Original Article
118	Mokutani Y, Mizushima T., Yamasaki M., et al.	大阪大学消化器外科	Prediction of postoperative complications following elective surgery in elderly patients with colorectal cancer using the comprehensive geriatric assessment	Dig Surg. 2016;33(6):470-7	Original Article

119	Mokutani Y, Uemura M., Munakata K., et al.	大阪大学消化器外科	Down-regulation of microRNA-132 is associated with poor prognosis of colorectal cancer.	Ann Surg Oncol. 2016 Dec;23(Suppl 5):599-608	Original Article
120	Munakata K, Uemura M., Tanaka S., et al.	大阪大学消化器外科	Cancer stem-like properties in colorectal cancer cells with low proteasome activity.	Clin Cancer Res. 2016 Nov 1;22(21):5277-5286	Original Article
121	Munakata K, Uemura M., Shimizu J., et al.	大阪大学消化器外科	Gasless transumbilical laparoscopic-assisted appendectomy as a safe and cost-effective alternative surgical procedure for mild acute appendicitis.	Surg Today. 2016 Mar;46(3):319-25	Original Article
122	Okubo K., Wada H., Tanaka A., et al.	大阪大学消化器外科	Identification of novel and noninvasive biomarkers of acute cellular rejection after liver transplantation by protein microarray.	Transplant Direct. 2016 Nov 18;2(12):e118	Original Article
123	Sueda T., Sakai D., Kudo T., et al.	大阪大学消化器外科	Efficacy and safety of regorafenib or TAS-102 in patients with metastatic colorectal cancer refractory to standard therapies.	Anticancer Res. 2016 Aug;36(8):4299-306	Original Article
124	Sueda T., Sakai D., Kawamoto K., et al.	大阪大学消化器外科	BRAF V600E inhibition stimulates AMP-activated protein kinase-mediated autophagy in colorectal cancer cells.	Sci Rep. 2016 Jan 11;6:18949	Original Article
125	Hara H., Takahashi T., Serada S., et al.	大阪大学消化器外科	Overexpression of glycan-1 implicates poor prognosis and their chemoresistance in oesophageal squamous cell carcinoma.	Br J Cancer. 2016 Jun 28;115(1):66-75	Original Article

126	Hara H., Takahashi T., Nakatsuka R., et al.	大阪大学消化器外科	A novel approach of optical biopsy using probe-based confocal laser endomicroscopy for peritoneal metastasis.	Surg Endosc. 2016 Aug;30(8):3437-46	Original Article
127	Kitahara T, Haraguchi N., Takahashi H., et al.	大阪大学消化器外科	Identification and characterization of CD107a as a marker of low reactive oxygen species in chemoresistant cells in colorectal cancer.	Ann Surg Oncol. 2017 Apr;24(4):1110-1119	Original Article
128	Mikamori M, Miyamoto A., Asaoka T., et al.	大阪大学消化器外科	Postoperative changes in body composition after pancreaticoduodenectomy using multifrequency bioelectrical impedance analysis.	J Gastrointest Surg. 2016 Mar;20(3):611-8	Original Article
129	Miyo M., Konno M., Nishida N., et al.	大阪大学消化器外科	Metabolic adaptation to nutritional stress in human colorectal cancer.	Sci Rep. 2016 Dec 7;6:38415	Original Article
130	Nakahara Y, Yamasaki M., Sawada G., et al.	大阪大学消化器外科	Downregulation of SIRT4 expression is associated with poor prognosis in esophageal squamous cell carcinoma.	Oncology. 2016;90(6):347-55	Original Article
131	Sakamoto T, Kobayashi S., Yamada D., et al.	大阪大学消化器外科	A histone deacetylase inhibitor suppresses epithelial-mesenchymal transition and attenuates chemoresistance in biliary tract cancer.	PLoS One. 2016 Jan 4;11(1):e0145985	Original Article
132	Ueda M., Iguchi T., Masuda T., et al.	大阪大学消化器外科	Somatic mutations in plasma cell-free DNA are diagnostic markers for esophageal squamous cell carcinoma recurrence.	Oncotarget. 2016 Sep 20;7(38):62280-62291	Original Article

133	Wada N., Kurokawa Y., Takahashi T., et al.	大阪大学消化器外科	Detecting secondary C-KIT mutations in the peripheral blood of patients with imatinib-resistant gastrointestinal stromal tumor.	Oncology. 2016;90(2):112-7	Original Article
134	Yanagimoto, Takiguchi S., Miyazaki Y., et al.	大阪大学消化器外科	Plasma ghrelin levels as a predictor of adverse renal events due to cisplatin-based chemotherapy in patients with esophageal cancer.	Jpn J Clin Oncol. 2016 May;46(5):421-6	Original Article
135	Yanagimoto, Yamasaki M., Nagase H., et al.	大阪大学消化器外科	Endoscopic anti-reflux valve for post-esophagectomy reflux: An animal study.	Endoscopy. 2016 Dec;48(12):1119-1124	Original Article
136	Yanagimoto, Takiguchi S., Miyazaki Y., et al.	大阪大学消化器外科	Improvement of cisplatin-related renal dysfunction by synthetic ghrelin: A prospective randomised phase II trial.	Br J Cancer. 2016 Jun 14;114(12):1318-25	Original Article
137	Yanagimoto, Takiguchi S., Miyazaki Y., et al.	大阪大学消化器外科	Comparison of pain management after laparoscopic distal gastrectomy with and without epidural analgesia.	Surg Today. 2016 Feb;46(2):229-34	Original Article
138	Matsuno H., Mizushima T., Nezu R., et al.	大阪大学消化器外科	Detection of anorectal cancer among patients with crohn's disease undergoing surveillance with various biopsy methods.	Digestion. 2016;94(1):24-9	Original Article
139	Yamamoto M, Sugimoto K., Maekawa Y., et al.	大阪大学消化器外科	Risk evaluation of postoperative delirium using comprehensive geriatric assessment in elderly patients with esophageal cancer.	World J Surg. 2016 Nov;40(11):2705-2712	Original Article

140	Yamamoto M, Kurokawa Y., Miyazaki Y., et al.	大阪大学消化器外科	Usefulness of preoperative plasma fibrinogen versus other prognostic markers for predicting gastric cancer recurrence.	World J Surg. 2016 Aug;40(8):1904-9	Original Article
141	Yamashita , Makino T., Miyata H., et al.	大阪大学消化器外科	Postoperative Infectious complications are associated with adverse oncologic outcomes in esophageal cancer patients undergoing preoperative chemotherapy	Ann Surg Oncol. 2016 Jun;23(6):2106-14	Original Article
142	Yamashita , Wada H., Eguchi H., et al.	大阪大学消化器外科	A CD13 inhibitor, ubenimex, synergistically enhances the effects of anticancer drugs in hepatocellular carcinoma.	Int J Oncol. 2016 Jul;49(1):89-98	Original Article
143	Ikeshima R, Nishimura J., Takahashi H., et al.	大阪大学消化器外科	A case of adenocarcinoma arising in an ileal diverticulum resected by laparoscopic surgery.	Surg Case Rep. 2016 Dec;2(1):135	Original Article
144	Kato R. , Nakajima K., Takahashi T., et al.	大阪大学消化器外科	A case of advanced systemic sclerosis with severe GERD successfully treated with acetamide.	Surg Case Rep. 2016 Dec;2(1):36	Original Article
145	Mukai Y. , Wada H., Eguchi H., et al.	大阪大学消化器外科	Intrahepatic cholangiocarcinoma in a patient with Wilson's disease: A case report.	Surg Case Rep. 2016 Dec;2(1):29	Case report
146	Nishizawa , Nishida N., Konno M., et al.	大阪大学消化器外科	Clinical significance of histone demethylase NO66 in invasive colorectal.	Ann Surg Oncol. 2017 Mar;24(3):841-849	Original Article

147	Sugase T., Takahashi T., Nakajima K., et al.	大阪大学消化器外科	Clinicopathological characteristics, surgery and survival outcomes of patients with duodenal gastrointestinal stromal tumors.	Digestion. 2016;94(1):30-6	Original Article
148	Sugase T., Takahashi T., Ishikawa T., et al.	大阪大学消化器外科	Surgical resection of recurrent gastrointestinal stromal tumor after interruption of long-term nilotinib therapy.	Surg Case Rep. 2016 Dec;2(1):137	Original Article
149	Takeda M., Yamada D., Eguchi H., et al.	大阪大学消化器外科	Clinical experience with pancreas graft rescue from severe thrombus after simultaneous pancreas-kidney transplantation by early detection with doppler ultrasound: A Case Report	Am J Case Rep. 2016 Nov 29;17:899-904	Case report
150	Colvin H., Nishida N., Konno M., et al.	大阪大学消化器外科	Oncometabolite D-2-hydroxyglurate directly induces epithelial-mesenchymal transition and is associated with distant metastasis in colorectal cancer.	Sci Rep. 2016 Nov 8;6:36289	Original Article
151	Kudo T., Hamamoto Y., Kato K., et al.	大阪大学消化器外科 (先進癌薬物療法開発学寄附講座)	Nivolumab treatment for oesophageal squamous-cell carcinoma: an open-label, multicentre, phase 2 trial.	Lancet Oncol. 2017 May;18(5):631-639	Original Article
152	Okuyama H., Usui N., Hayakawa M., et al.	小児外科	Appropriate timing of surgery for neonates with congenital diaphragmatic hernia: early or delayed repair?	Pediatr Surg Int. 2017 Feb;33(2):133-138.	Original Article
153	Tazuke Y., Okuyama H., Ueno T., et al.	小児外科	The effects of adaptive enteral decompression surgeries in pediatric HPN patients with chronic intestinal pseudo-obstruction	Clinical Nutrition. 2016 Sept. 35:S195.	Original Article

154	Ueno T, Uehara S, Nakahata K, et al.	小児外科	Survivin selective inhibitor YM155 promotes cisplatin-induced apoptosis in embryonal rhabdomyosarcoma	Int J Oncol. 2016 May;48(5):1847-54.	Original Article
155	Ueno T, Zenitani M, Yamamoto H, et al.	小児外科	Impact of Donor Specific Antibody to graft fibrosis after Pediatric Living Donor Liver Transplantation for Biliary Atresia	Transplant Proc. 2016 May;48(4):1095-9.	Original Article
156	Saka R, Wakimoto T, Nishiumi F, et al.	小児外科	Surfactant protein-D attenuates the lipopolysaccharide-induced inflammation in human intestinal cells overexpressing toll-like receptor 4	Pediatr Surg Int. 2016 Jan;32(1):59-63.	Original Article
157	Nakahata K, Uehara S, Zenitani M, et al.	小児外科	Patient Satisfaction after Sclerotherapy of Venous Malformations in Children	Pediatr Int. 2016 Aug;58(8):721-5.	Original Article
158	Umeda S, Usui N, Kanagawa T, et al.	小児外科	Prenatal and Postnatal Clinical Course of an Urachus Identified as an Allantoic Cyst in the Umbilical Cord	Eur J Pediatr Surg. 2016 Apr;26(2):200-2.	Original Article
159	Umeda S, Miyagawa S, Fukushima S, et al.	小児外科	Enhanced Pulmonary Vascular and Alveolar Development via Prenatal Administration of a Slow-Release Synthetic Prostacyclin Agonist in Rat Fetal Lung Hypoplasia	PLoS One. 2016 Aug 16;11(8):e0161334.	Original Article
160	Matsuura R, Maeda A, Sakai R, et al.	小児外科	Human HLA-Ev(147) expression in Transgenic Animals	Transplant Proc. 2016 May;48(4):1323-5.	Original Article

161	Deguchi K, Ueno T, Matsuura R, et al.	小児外科	Disseminated Metastatic Tissue Calcification After Orthotopic Liver Transplantation: A Case Report	Transplant Proc. 2016 Jan-Feb;48(1):251-4.	Original Article
162	Eguchi H, Kawamura T, Kashiyama N, et al.	小児外科	Supplemental analysis for N-linked sugars in adult pig islets (API)	Transplant Proc. 2016 May;48(4):1302-3.	Original Article
163	Eguchi H, Maeda A, Lo PC, et al.	小児外科	HLA-G1, but not HLA-G3, suppresses human monocyte/macrophag e-mediated swine endothelial cell ysis	Transplant Proc. 2016 May;48(4):1285-7.	Original Article
164	Sakai R, Kitano E, Hatanaka M, et al.	小児外科	Studies of pig complement: measurement of pig CH50, ACH50, and components	Transplant Proc. 2016 May;48(4):1282-4.	Original Article
165	Sakai R, Esaki Y, Hasuwa H, et al.	小児外科	Knockout of cytidine monophospho-N- acetylneuraminc acid (CMP-NeuAc) hydroxylase from porcine endothelial cells by a CRISPR system	Transplant Proc. 2016 May;48(4):1320-2.	Original Article
166	Sakai R, Maeda A, Matsuura R, et al.	小児外科	Expression of A Synthetic Gene of CTDM-by-Transgenic Animals	Transplant Proc. 2016 May;48(4):1279-81.	Original Article
167	Sakai R, Kitano E, Maeda A, et al.	小児外科	Studies of innate immune systems against human cells	Transpl Immunol. 2017 Feb;40:66-71.	Original Article

168	Ohshima K, Nojima S, Tahara S, et al.	病理診断科	Argininosuccinate Synthase 1– Deficiency Enhances the Cell Sensitivity to Arginine through Decreased DEPTOR Expression in Endometrial Cancer.	Sci Rep. 2017 Mar; 7: 45504.	Original Article
169	Ikeda JI, Kohara M, Tsuruta Y, S, et al.	病理診断科	Immunohistochemical analysis of the novel marginal zone B-cell marker IRTA1 in malignant lymphoma.	Hum Pathol. 2017 Jan; 59: 70–79.	Original Article
170	Morii E.	病理診断科	Heterogeneity of tumor cells in terms of cancer-initiating cells.	J Toxicol Pathol. 2017 Jan; 30: 1–6.	Review
171	Ikeda JI, Wada N, Nojima S, S, et al.	病理診断科	ID1 upregulation and FoxO3a downregulation by Epstein–Barr virus– encoded LMP1 in Hodgkin’s lymphoma.	Mol Clin Oncol. 2016 Nov; 5: 562–566.	Original Article
172	Zhan M, Hori Y, Wada N, et al.	病理診断科	Angiogenic Factor with G-patch and FHA Domain 1 (AGGF1) Expression in Human Vascular Lesions.	Acta Histochem Cytochem. 2016 Apr; 49: 75–81.	Original Article
173	Tahara S, Nojima S, Ohshima K, S, et al.	病理診断科	S100A4 accelerates the proliferation and invasion of endometrioid carcinoma and is associated with the “MELF” pattern.	Cancer Sci. 2016 Sep; 107: 1345–52.	Original Article
174	Wada N, Ikeda J, Nojima S, S, et al.	病理診断科	Requirement of CXCL12–CXCR7 signaling for CD20(–) CD138(–) double– negative population in lymphoplasmacytic lymphoma.	Lab Invest. 2016 May; 96: 517–25.	Original Article

175	Zhan M, Ikeda JI, Wada N, S, et al.	病理診断科	Prognostic significance of a component of the Hippo pathway, TAZ, in human uterine endometrioid adenocarcinoma.	Oncol Lett. 2016 Jun; 11: 3611-3616.	Original Article
176	Matsui T, Maeda T, Kida T, S, et al.	病理診断科	Pleuroparenchymal fibroelastosis after allogenic hematopoietic stem cell transplantation: important histological component of late-onset noninfectious pulmonary complication accompanied with recurrent pneumothorax.	Int J Hematol. 2016 Oct; 104: 525-30.	Original Article
177	Fujikado T, Kamei M, Sakaguchi H, et al.	大阪大学眼科	One-Year Outcome of 49-Channel Suprachoroidal-Transretinal Stimulation Prosthesis in Patients With Advanced Retinitis Pigmentosa	Invest Ophthalmol Vis Sci 2016 Nov;57(14):6147-57	Original Article
178	Ogawa M, Hosokawa K, Iwahashi T, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	The results of Kaplan-Meyer and multivariate analyses of etiological factors related to the outcome of combined pharmacological therapy against laryngeal granuloma.	Acta Otolaryngol. 2016 Nov; 136(11): 1141-1146	Original Article
179	Iwahashi T, Ogawa M, Hosokawa K, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	A detailed motion analysis of the angular velocity between the vocal folds during throat clearing using high-speed digital imaging.	J Voice. 2016 Nov; 30(6): 770.e1-770.e8.	Original Article
180	Okumura T, Imai T, Higashi-Shingai K, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Paroxysmal vertigo with nystagmus in children.	Int J Pediatr Otorhinolaryngol. 2016 Sep; 88: 89-93.	Original Article

181	Okumura T, Imai T, Takimoto Y, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Assessment of endolymphatic hydrops and otolith function in patients with Meniere's disease.	Eur Arch Otorhinolaryngol. 2017 Mar; 274(3): 1413-1421.	Original Article
182	Takenaka S, Aono H	整形外科	Prediction of Postoperative Clinical Recovery of Drop Foot Attributable to Lumbar Degenerative Diseases, via a Bayesian Network.	Clin Orthop Relat Res. 2017 Mar;475(3):872-880.	Original Article
183	Takenaka S, Mukai Y, Tateishi K, et al.	整形外科	Clinical Outcomes After Posterior Lumbar Interbody Fusion Comparison of Cortical Bone Trajectory and Conventional Pedicle Screw Insertion	Clin Spine Surg. 2017 Mar 6. doi: 10.1097/BSD.00000000000000514. [Epub ahead of print]	Original Article
184	Takenaka S, Nagamoto Y, Aono H, et al.	整形外科	Differences in the time of onset of postoperative upper limb palsy among surgical procedures: a meta-analysis	Spine J. 2016 Dec;16(12):1486-1499.	Original Article
185	Shimomura K, Moriguchi Y, Nansai R, et al	整形外科	Comparison of 2 Different Formulations of Artificial Bone for a Hybrid Implant With a Tissue-Engineered Construct Derived From Synovial Mesenchymal Stem Cells: A Study Using a Rabbit Osteochondral Defect	Am J Sports Med 2017 Mar;45(3):666-675.	Original Article
186	Shimomura K, Rothrauff BB, Tuan RS	整形外科	Region-Specific Effect of the Decellularized Meniscus Extracellular Matrix on Mesenchymal Stem Cell-Based Meniscus Tissue Engineering.	Am J Sports Med 2017 Mar;45(3):604-611.	Original Article

187	Takenaka.S, Naka.N, Obata.H et.al	整形外科	Treatment outcomes of Japanese patients with Ewing sarcoma: differences between skeletal and extraskeletal Ewing sarcoma.	Japanese journal of clinical oncology 2016 Jun;46(6):522-8	Original Article
188	Otsuki.D, Yoshida.K, Kobayashi.M et.al	整形外科	Costal cartilage transplantation for treatment of growth plate injury in a rabbit model.	J Child Orthop. 2017;11(1):20-27	Original Article
189	Kawano.F, Ono.Y, Hujita.R et.al	整形外科	Prenatal myonuclei play a crucial role for skeletal muscle hypertrophy in rodents	Prenatal myonuclei play a crucial role for skeletal muscle hypertrophy in rodents 312_3_C233~243 2016	Original Article
190	Uchida.R, Mae.T, Hiramatsu.K et. al	整形外科	Effects of suture site or penetration depth on anchor location in all-inside meniscal repair	Knee 23_6_1024~1028 2016	Original Article
191	Itami.Y, Mihata.T, Shibano.K et.al	運動器バイオマテリアル学寄附講座	Site and Severity of the Increased Humeral Retroversion in Symptomatic Baseball Players: A 3-dimensional Computed Tomographic Analysis.	BMC Musculoskelet Disord. 17(1):424 201610	Original Article
192	Uemura K, Takao M, Sakai T, et al.	運動器医工学治療学	The Validity of Using the Posterior Condylar Line as a Rotational Reference for the Femur.	J Arthroplasty. 2016 Jan;31(1):302-6.	Original Article
193	Puppulin L, Negra SD, Sugano N, et al.	運動器医工学治療学	Surface modifications induced by in-vitro wear and oxidation on γ -irradiated UHMWPE hip liners belonging to different commercial generations.	J Mech Behav Biomed Mater. 2016 Jan;53:414-426.	Original Article

194	Hamada H, Takao M, Nakahara I, et al.	運動器医工学治療学	Hip range-of-motion (ROM) is less than normal after rotational acetabular osteotomy for developmental dysplasia of the hip: A simulated ROM analysis.	J Orthop Res. 2016 Feb;34(2):217-23.	Original Article
195	Boffelli M, Doimo A, Marin E, et al.	運動器医工学治療学	Chemically driven tetragonal-to-monoclinic polymorphic transformation in retrieved ZTA femoral heads from dual mobility hip implants.	J Mech Behav Biomed Mater. 2016 Mar;56:195-204.	Original Article
196	Uemura K, Takao M, Sakai T, et al.	運動器医工学治療学	Volume Increases of the Gluteus Maximus, Gluteus Medius, and Thigh Muscles After Hip Arthroplasty.	J Arthroplasty. 2016 Apr;31(4):906-912.e1.	Original Article
197	Tsuda K, Nishii T, Sakai T, et al.	運動器医工学治療学	Thromboprophylaxis with low-dose, short-term fondaparinux after elective hip surgery.	J Thromb Thrombolysis. 2016 Apr;41(3):413-21.	Original Article
198	Higuchi C, Sugano N, Yoshida K, et al.	運動器医工学治療学	Is hip dysplasia a common deformity in skeletally mature patients with hereditary multiple exostoses?	J Orthop Sci. 2016 May;21(3):323-6.	Original Article
199	Takao M, Nishii T, Sakai T, et al.	運動器医工学治療学	Postoperative Limb-Offset Discrepancy Notably Affects Soft-Tissue Tension in Total Hip Arthroplasty	J Bone Joint Surg Am. 2016 Sep 21;98(18):1548-54.	Original Article
200	Nakamura N, Maeda Y, Hamawaki M, et al.	運動器医工学治療学	Effect of soft-tissue impingement on range of motion during posterior approach Total Hip Arthroplasty: an in vivo measurement study	Comput Assist Surg (Abingdon). 2016 Dec;21(1):132-136.	Original Article

201	Kagiyama Y, Otomaru I, Takao M, et al.	運動器医工学治療学	CT-based automated planning of acetabular cup for total hip	Int J Comput Assist Radiol Surg. 2016 Dec;11(12):2253-2271.	Original Article
202	Uchida.R, Toritsuka.Y, Mae.T et. al	整形外科	Healing of tibial bone tunnels after bone grafting for staged revision anterior cruciate ligament surgery: A prospective computed tomography analysis.	Knee Oct;23(5):830-6 2016	Original Article
203	Kawakami.y, Yonetani.Y, Takao.R et.al	整形外科	Reproducibility of Dynamic Body Balance Measurement by the Center of Foot Pressure Analysis Immediately after Single-leg Hop Landing.	J Orthop Traumatol. 62(3-4):41-6 2016	Original Article
204	Hiramatsu.k, Yonetani.Y, Kinugasa.K et. .al	整形外科	Deep peroneal nerve palsy with isolated lateral compartment syndrome secondary to peroneus longus tear: a report of two cases and a review of the literature.	J Orthop Traumatol. Jun 17(2):181-5. 2016	Original Article
205	Lyman.S, Nakamura.N, Cole.BJ et. al	整形外科	Cartilage Repair Innovation at a Standstill: methodologic and regulatory pathways to break free.	J Bone Joint Surg. Am. 98 2016Aug 3;98(15):e63. doi	Original Article
206	Nakamura.N, Gobbi.A, Letterman.C	整形外科	Articular Cartilage Solutions for the Knee: Present Challenges and Future Direction.	J. ISAKOS 1 2016 1:93-104	Original Article
207	Yasui.Y, Chijimatsu.R, Hart.DA et.al	整形外科	Preparation of Scaffold-free Tissue Engineered Constructs Derived from Human Synovial Mesenchymal Stem Cells under Low Oxygen Tension Enhances their	Tissue Eng. Part A 22 2016 Mar;22(5-6):490-500.	Original Article

208	Nakamura.N, Yoshikawa.H, Shimomura.K et. al	整形外科	Scaffold-free, stem cell-based cartilage repair.	J Clin Orthop Trauma. 7 2016	Original Article
209	Koizumi.K, Ebina.K, Hart.DA et.al	整形外科	Synovial mesenchymal stem cells from osteo- or rheumatoid arthritis joints exhibit good potential for cartilage repair using a scaffold-free tissue engineering approach.	Osteoarthritis Cartilage 24 2016	Original Article
210	Scotti.C, Gobbi.A,Kamatzikos.G et.al	整形外科	Cartilage repair in the inflamed joint: considerations for biological augmentation towards tissue regeneration.	Tissue Eng Part B Rev. 22 2016	Original Article
211	Nishimoto S, Okada K, Tanaka H, et al.	整形外科	Neurotropin attenuates local inflammatory response and inhibits demyélination induced by chronic constriction injury of the mouse sciatic nerve.	Biologicals. 2016 Jul; 44: 206-211	Original Article
212	Oura K, Kunihiro.O Okada K, et al.	整形外科	Corrective osteotomy assisted by computer simulation for a malunited intra-articular fracture of the distal humerus: two case reports.	Arch Orthop Trauma Surg. 2016 Nov; 136: 1499-1505	Original Article
213	Kawanishi Y, Oka K, Tanaka H, et al.	整形外科	In Vivo Scaphoid Motion During Thumb and Forearm Motion in Casts for Scaphoid Fractures.	J Hand Surg Am. 2017 Jun; 42: 475.e1-e7	Original Article
214	Oura.k, Moritomo.H, Kataoka.T et.al	整形外科	Three-dimensional analysis of osteophyte formation on distal radius following scaphoid nonunion.	J Orthop Sci 22(1), 50-55 201608	Original Article

215	Murase.T	整形外科	Surgical Technique of Corrective Osteotomy for Malunited Distal Radius Fracture Using the Computer-Simulated Patient Matched Instrument	J Hand Surg Asian Pac Vol 21(2):133-9. 201606	Original Article
216	Oura.K, Otake.Y, Shigi.A et.al	整形外科	Prediction of forearm bone shape based on partial least squares regression from partial shape.	Int J Med Robot Epub ahead of print 201702 10.1002	Original Article
217	Miyamura.S, Shigi.A, Kuraisharin.J et.al	整形外科	Impact of Distal Ulnar Fracture Malunion on Distal Radioulnar Joint Instability: A Biomechanical Study of the Distal Interosseous Membrane Using a Cadaver Model.	J Hand Surg Am 42(3):e185-e191 2017303	Original Article
218	Okada.K, Miyata.T, Sawa.Y	整形外科	Insurance systems and reimbursement concerning research and development of regenerative medicine in Japan.	Regen Med 12(2):179-186 201703	Original Article
219	Ebina.K, Hirao.M, Hashimoto.J et.al	整形外科	Comparison of a self-administered foot evaluation questionnaire (SAFE-Q) between joint-preserving arthroplasty and resection-replacement arthroplasty in forefoot surgery for patients with rheumatoid arthritis	Mod Rheumatol. [Epub ahead of print] 2016. Dec 9 27(5):795-800	Original Article
220	Ebina.k, Kashii.M, Hirao.M et.al	整形外科	Comparison of the effects of denosumab between a native vitamin D combination and an active vitamin D combination in patients with postmenopausal osteoporosis	J Bone Miner Metab. [Epub ahead of print] 2016. Nov 9.	Original Article

221	Ebina.K, Noguchi.T, Hirao.M	整形外科	Effects of switching weekly alendronate or risedronate to monthly minodronate in patients with rheumatoid arthritis: a twelve-month prospective study	Osteoporosis International 27(1):351–9. 2016. Jan	Original Article
222	Ebina.K, Noguchi.at, Hirao.M et.al	整形外科	Comparison of the effects of 12 months monthly minodronate monotherapy and monthly minodronate combination therapy with vitamin K2 or eldecalcitol in patients with primary osteoporosis	J Bone Miner Metab. 34(3):243–50. 2016. May	Original Article
223	Koizumi.K, Ebina.K, Hart.DA et.al	整形外科	Synovial mesenchymal stem cell's from osteo- or rheumatoid arthritis joints exhibit good potential for cartilage repair using a scaffold-free tissue engineering approach	Osteoarthritis and Cartilage 24(8):1413–22. 2016. Aug	Original Article
224	Hirao.M, Ebina.K, Tsuboi.H, et.al	整形外科	Appearance of hindfoot valgus deformity and recurrence of hallux-valgus in the very early period after hallux valgus surgery in a poorly controlled rheumatoid arthritis case: a case report	Mod Rheumatol. [Epub ahead of print] 2016. Jul 18:1–3.	Original Article
225	Kaito.T,Mori moto.T Kanayama.S et.al	整形外科	Modeling and remodeling effects of intermittent administration of teriparatide (parathyroid hormone 1–34) on bone morphogenetic protein-induced bone in a rat spinal fusion model	Bone Reports. 5:173–180 2016. July	Original Article
226	Hirao.M Ebina.K, Hirai.Y et.al	整形外科	Hallux valgus deformity after total ankle arthroplasty for rheumatoid arthritis: a case report	Mod Rheumatol. [Epub ahead of print] May 4:1–3.	Original Article

227	Kaito.T, Ohshima.S, Makino.T et.al	整形外科	Incidence and risk factors for cervical lesions in patients with rheumatoid arthritis under the current pharmacologic treatment paradigm.	Mod Rheumatol [Epub ahead of print] 201611	Original Article
228	Kaito.T	整形外科	Biologic enhancement of Spinal fusion with bone morphogenetic protein: current position based on clinical evidence and future perspective. Journal of Spine Surgery	Journal of Spine Surgery 2(4):357-358 201612	Original Article
229	Kaito.T, Morimoto.T, Kanayama.S et.al	整形外科	Modeling and remodeling effects of intermittent administration of teriparatide (parathyroid hormone 1-34) on bone morphogenetic protein-induced bone in a rat spinal fusion model.	Bone Reports 5:173-180 2016. July	Original Article
230	Kaito.T	整形外科	Point of View	Spine 41:(8), 661201608	Original Article
231	Glassman.S, Carreon.LY Andersen.M et.al	整形外科	Predictors of hospital readmission and surgical site infection in the united states, Denmark and Japan: Is risk stratification a universal language?	Spine [Epub ahead of print] 2016 1;42(17):1311-1315	Original Article
232	Kashii.M, Matsuo.Y Sugiura.T et.al	整形外科	Circulating sclerostin and dickkopf-1 levels in ossification of the posterior longitudinal ligament of the spine.	J Bone Miner Metab 34(3):315-324 201605	Original Article

233	Otsuru.S, Overholt.KM, Olson.TS et.al	整形外科	Hematopoietic derived cells do not contribute to osteogenesis as osteoblasts.	Bone [Epub ahead of print] 2016	Original Article
234	Fujiwara.H, Makino.T Yonenobu.K et.al	整形外科	Correlations and time-dependent changes of upper arm performance tests, the Japanese Orthopaedic Association score, and a newly developed patient-based outcome measure : the Japanese Orthopaedic Cervical	Bone Joint J 98-B(5):666-71 2016	Original Article
235	Takenaka.S, Nagamoto.Y, Aono.H et.al	整形外科	Differences in the time of onset of postoperative upper limb palsy among surgical procedures: a meta-analysis.	Spine J 16(12)	Original Article
236	Makino.T, Kaito.T, Sakai.Y et.al	整形外科	Plasticity of vertebral wedge deformities in skeletally immature patients with adolescent idiopathic scoliosis after posterior corrective surgery	BMC Musculoskeletal Disord 17(1):424 201610	Original Article
237	Makino.T, Kaito.T, Sakai.Y et.al	整形外科	Asymmetrical ossification in the epiphyseal ring of patients with adolescent idiopathic scoliosis: a retrospective review.	Bone Joint J. 98-B(5):666-671 201605	Original Article
238	Kaito.T	整形外科	PRPV1 as a new target for osteoarthritis-related pain	Annals of Joint. [Epub ahead of print] 2016	Original Article

239	Takenaka.S, Hosono.N, Mukai.Y et.al	整形外科	Significant reduction in the incidence of C5 palsy after cervical laminoplasty using chilled irrigation water.	Bone Joint J. 98-B(1):117-124 201601	Original Article
240	Takenaka S, Tateishi K, Hosono N, et al.	整形外科	Preoperative retrolisthesis as a risk factor of postdecompression lumbar disc herniation.	J Neurosurg Spine. 2016 Apr;24(4):592-601.	Original Article
241	Takenaka.S, Aono.H, Tobimatsu.H et.al	整形外科	Surgical outcomes of temporary short- segment instrumentation without augmentation for thoracolumbar burst fractures.	Injury 47(6):1337-1344 201606	Original Article
242	Tsuda K, Nishii T, Sakai T, et al.	整形外科	Thromboprophylaxis with low- dose,fondaparinux after elective hip surgery	J Thromb Thrombolysis 41(3):413-21 201603	Original Article
243	Arase N, Yang L, Tanemura A,e t al.	皮膚科	The effect of rhododendrol inhibition of NF- κ B on melanocytes in the presence of tyrosinase.	J Dermatol Sci. 2016Aug;83(2):157-9.	Original Article
244	Hirayasu K, Saito F, Suenaga T, et al.	皮膚科	Microbially cleaved immunoglobulins are sensed by the innate immune receptor LILRA2.	Nat Microbiol. 2016 Apr ;1(6):16054.	Original Article

245	Iwamoto Y, Nishikawa K, Imai R, et al.	皮膚科	<i>Intercellular Communication between Keratinocytes and Fibroblasts Induces Local Osteoclast Differentiation: a Mechanism Underlying Cholesteatoma-Induced Bone Destruction</i>	Mol Cell Biol. 2016 May 16;16(11):1610-20.	Original Article
246	Hagiya H, Hayashi M, Katayama I, et al.	皮膚科	Olecranon Osteomyelitis Caused by <i>Mycobacterium chelonae</i> .	Intern Med. 2016;55(13):1825.	Original Article
247	Murota H, Katayama I	皮膚科	Evolving understanding on the aetiology of thermally provoked itch.	Eur J Pain. 2016 Jan;20(1):47-50.	Review
248	Shindo S, Murota H, Katayama I	皮膚科	Possible association of pigmentary demarcation line with cervical conization and contraceptives	J Dermatol. 2016 Dec;43(12):1444-5.	Letter
249	Terao M, Itoi S, Matsumura S, et al.	皮膚科	Local Glucocorticoid Activation by 11β -Hydroxysteroid Dehydrogenase 1 in Keratinocytes: The Role in Hapten-Induced Dermatitis.	Am J Pathol. 2016 Jun;186(6):1499-510.	Original Article
250	Tanaka M, Hirata H, Wataya-Kaneda M, et al.	皮膚科	Lymphangiomyomatosis and multifocal micronodular pneumocyte hyperplasia in Japanese patients with tuberous sclerosis complex.	Respir Investig 2016 Jan;54(1):8-13.	Original Article

251	Wataya-Kaneda M, Nakamura A, Tanaka M, et al.	皮膚科	Efficacy and Safety of Topical Sirolimus Therapy for Facial Angiofibromas in the Tuberous Sclerosis Complex : A Randomized Clinical Trial.	JAMA Dermatol 2017 Jan 1;153(1):39-48	Original Article
252	Tokumasu R, Yamaga K, Yamazaki Y, et al.	皮膚科	Dose-dependent role of claudin-1 in vivo in orchestrating features of atopic dermatitis.	Proc Natl Acad Sci U S A. 2016 Jul ;113(28): E4061-8.	Original Article
253	Hirohata A, Yamaoka T, Hayashi M, et al.	皮膚科	Unique case of postural cholinergic urticaria induced by a standing position.	Clin Exp Dermatol. 2016 Jun;41(4):439-40.	Letter
254	Yang L, Murota H, Shindo S, et al.	皮膚科	Increased serum CXCR2 ligand levels in livedo vasculopathy with winter ulcerations: Possible contribution of neutrophil recruitment to lesional skin.	J Dermatol Sci. 2016 Apr ; 82(1): 57-9.	Original Article
255	Tomita K, Yano K, Nishibayashi A, et al.	形成外科	Aesthetic outcomes of inframammary fold recreation in two-stage, implant-based, breast reconstruction.	Springerplus. 2016 Sep; 26: 1656	Original Article
256	Saito T, Tomita K, Maeda D, et al.	形成外科	Unilateral Failure in Microvascular Bilateral Breast Reconstruction Salvaged by Flap Transfer to the Contralateral Breast	Arch Plast Surg. 2017 Mar;44(2):173-174.	Case report
257	Kubo T, Matsuda K, Kiya K, et al.	形成外科	Behavior of anastomosed vessels and transferred flaps after anastomosed site infection in head and neck microsurgical reconstruction.	Microsurgery. 2016; 36: 658-663	Original Article

258	Kazui H, Yoshiyama K, Kanemoto H, et al.	神経科・精神科	Differences of Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia in Disease Severity in Four Major Dementias	PLoS One. 2016 Aug 18;11(8):e0161092.	Original Article
259	Kazui H, Kanemoto H, Yoshiyama K, et al.	神経科・精神科	Association between high biomarker probability of Alzheimer's disease and improvement of clinical outcomes after shunt surgery in patients with idiopathic normal pressure hydrocephalus.	J Neurol Sci. 2016 Oct 15;369:236-41.	Original Article
260	Kazui H, Takahashi R, Yamamoto Y, et al.	神経科・精神科	Neural basis of apathy in patients with amnestic mild cognitive impairment.	J Alzheimers Dis. 2017;55(4):1403-1416.	Original Article
261	Achiha T, Takagaki M, Oe Hi, 他	脳神経外科	Voxel-based lesion mapping of cryptogenic stroke in patients with advanced cancer: A detailed MRI analysis of distribution pattern.	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases. 2016	Original Article
262	Arita H, Yamasaki K, Matsushita Y, 他	脳神経外科	A combination of TERT promoter mutation and MGMT methylation status predicts clinically relevant subgroups of newly diagnosed glioblastomas	Acta neuropathologica communications. 2016	Original Article
263	Fukuma R, Yanagisawa T, Yorifuji S, 他	脳神経外科	Real-Time Control of a Neuroprosthetic Hand by Magnetoencephalographic Signals from Paralysed Patients	SCIENTIFIC REPORTS. 2016	Original Article

264	Goto Y, Oshino S, Nishino A, 他	脳神経外科	Pituitary dysfunction after aneurysmal subarachnoid hemorrhage in Japanese patients	Journal of Clinical Neuroscience・2016	Original Article
265	Goto Y, Oshino S, Shimizu T, 他	脳神経外科	Application of atelocollagen sheet for sellar reconstruction.	Journal of Clinical Neuroscience	Original Article
266	Hosomi K, Morris S, Sakamoto T, 他	脳神経外科	Daily repetitive transcranial magnetic stimulation for post- stroke upper limb paresis in the subacute period	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases・ 2016	Original Article
267	Kishima H, Oshino S, Tani N, 他	脳神経外科	Navigation-assisted trans-inferotemporal cortex selective amygdalohippocampal ctomy for mesial temporal lobe epilepsy; preserving the temporal stem.	Neurol Res・2016	Original Article
268	Kishima H, Yanagisawa T, Goto Y, 他	脳神経外科	Respiratory Function Under Intrathecal Baclofen Therapy in Patients with Spastic Tetraplegia	Neuromodulation・2016	Original Article
269	Nakamura H, Nishida T, Asai K, 他	脳神経外科	Usefulness of Coil- assisted Technique in Treating Wide-neck Intracranial Aneurysms: Neck- bridge Procedure Using the Coil Mass as a Support	Journal of Neuroendovascular Therapy・2016	Original Article
270	Ohnishi Y, Iwatsuki K, Shinzawa K, 他	脳神経外科	Promotion of astrocytoma cell invasion by micro RNA-22 targeting of tissue inhibitor of matrix metalloproteinase-2.	J Neurosurg Spine・2016	Original Article

271	Yanagisawa T, Fukuma R, Ben Seymour, 他	脳神経外科	Induced sensorimotor brain plasticity controls pain in phantom limb patients	Nature communications• 2016	Original Article
272	Kobayashi, E. Kakuda, M. Tanaka, Y. et al.	大阪大学医学部産科学婦人科学教室	Utility of an internal retractor (EndoGrab) for the management of the vesicouterine ligament during laparoscopic radical hysterectomy	Gynecol Obstet Invest. 2016;81(4):363-6.	Original Article
273	Kobayashi, E. Kakuda, M. Tanaka, Y. et al.	大阪大学産科学婦人科学教室	A novel device for cleaning the camera port during laparoscopic surgery	Surg Endosc. 2016 Jan;30(1):330-4.	Original Article
274	Sakai N, Otomo T	小児科	Challenge of phenotype estimation for optimal treatment of Krabbe disease.	J Neurosci Res, 94(11):1025–1030, 2016.	Review
275	16) Kondo H, Maksimova N, Otomo T, et al	小児科	Mutation in VPS33A affects metabolism of glycosaminoglycans: a new type of mucopolysaccharidoses with severe systemic symptoms	Hum Mol Genet, 26(1) :173–183, 2017.	Original Article
276	Fujiwara M, Kubota T, Wang W, et al	小児科	Successful induction of sclerostin in human-derived fibroblasts by 4 transcription factors and its regulation by parathyroid hormone hypoxia and prostaglandin E2.	Bone, 85:91–98, 2016.	Original Article
277	Kubota T, Wang W, Miura K, et al	小児科	Serum NT-proCNP levels increased after initiation of GH treatment in patients with achondroplasia/hypochondroplasia.	Clin Endocrinol (oxf), 84 (6) :845–50, 2016.	Original Article

278	Miyoshi Y, Yorifuji T, Horikawa R, et al	小児科	Gonadal function, fertility, and reproductive medicine in childhood and adolescent cancer patients: a national survey of Japanese pediatric endocrinologists.	Clini Pediatr Endocrinol, 25(2) :45-57, 2016.	Original Article
279	Nawa N, Ishida H, Katsuragi S, et al	小児科	Constitutively active form of natriuretic peptide receptor 2 ameliorates experimental pulmonary arterial hypertension.	Mol Ther Methods Clin Dev, 3:16044, 2016.	Original Article
280	Ishida H, Saba R, Kokkinopoulos I, et al	小児科	GFRA2 identifies cardiac progenitors and mediates cardiomyocyte differentiation in a RET-independent signaling pathway.	Cell Rep, 16(4) :1026-1038, 2016.	Original Article
281	Yamamoto K, Namba N, Kubota T, et al	小児科	Pheochromocytoma complicated by cyanotic congenital heart disease: a case report.	Clini Pediatr Endocrinol, 25(2) :59-65, 2016.	Case report
282	Banno K, Omori S, Hirata K, et al	小児科	Systematic cellular disease models reveal synergistic interaction of trisomy 21 and GATA1 mutations in hematopoietic abnormalities.	Cell Rep. 10;15(6) :1228-1241, 2016.	Original Article
283	Nawa N, Kogaki S, Ozono K	小児科	Listening to public concerns on vaccinations in order to provide information in a timely manner.	Vaccine, 35(10) :1369, 2016.	Letter
284	Nawa N, Kogaki S, Takahashi K, et al	小児科	Analysis of public concerns about influenza vaccinations by mining a massive online question dataset in Japan.	Vaccine, 34(27) :3207-3213, 2016.	Original Article

285	Ishida H, Kwazu Y, Kayatani H, et al	小児科	Prognostic factors of premature closure of the ductus arteriosus in utero: a systematic literature review.	Cardiology in the Young 2017, 27:634–638, 2016.	Review
286	Hirata Y, Inoue M, Nabatame S, et al	小児科	Multidisciplinary treatment for prepubertal juvenile myasthenia gravis with crisis.	Pediatr Int, 58(8) :772–774, 2016.	Case report
287	Miyoshi Y, Yasuda K, Tachibana M, et al	小児科	Longitudinal observation of serum anti-Müllerian hormone in three girls after cancer treatment.	Clin Pediatr Endocrinol, 25(4) :119–126, 2016.	Original Article
288	Kimura T, Yamashita A, Ozono K, et al	小児科	Limited immunogenicity of human induced pluripotent stem cell-derived cartilages.	Tissue Eng Part A, 22 (23–24) :1367–1375, 2016.	Original Article
289	Tanigawa J, Mimatsu H, Mizuno S, et al	小児科	Phenotype-genotype correlations of PIGO deficiency with variable phenotypes from infantile lethality to mild learning difficulties.	Hum Mutat, 38(7) :805–815, 2017.	Original Article
290	Kitaoka T, Tajima T, Nagasaki K, et al	小児科	Safety and efficacy of treatment with asfotase alfa in patients with hypophosphatasia: Results from a Japanese Clinical Trial.	Clin Endocrinol (Oxf), 87 (1) :10–19, 2017.	Original Article
291	Tachibana M, Nakayama M, Miyoshi Y	小児科	Placental examination: prognosis after delivery of the growth-restricted fetus.	Curr Opin Obstet Gynecol, 28(2) :95–100, 2016.	Review

292	Hirata K, Sumi K, Nakayama M, et al	小児科	Early-onset chronic obstructive pulmonary disease in Wilson-Mikity syndrome with preterm birth.	Pediatr Int, 59(3) :364–365, 2017.	Case report
293	Tachibana M, Kato T, Kato- Nishimura K, et al	小児科	Associations of sleep bruxism with age, sleep apnea and daytime problematic behaviors in children.	Oral Dis, 22(6) :557–565, 2016.	Original Article
294	Nagahara Akira Uemura Motohide Kawashima Atsunari etal.	泌尿器科	R.E.N.A.L. nephrometry score predicts postoperative recurrence of localized renal cell carcinoma treated by radical nephrectomy.	Int J Clin Oncol. 2016 Apr;21(2):367–72. d	Original Article
295	Hata A, Yanagawa M, Honda O, et al.	放射線診断・IVR科	Submillisievert CT using model-based iterative reconstruction with lung-specific setting.:An initial phantom study.	European Radiology. 2016 Dec; 26(12): 4457–4464	Original Article
296	Yanagawa M, Morii E, Hata A, et al.	放射線診断・IVR科	Dual-energy dynamic CT of lung adenocarcinoma: correlation of iodine uptake with tumor gene expression.	Eur J Radiol. 2016 Aug; 85(8): 1407–1413	Original Article
297	Hori M, Kim T, Onishi H, et al.	放射線診断・IVR科	Single-breath-hold thin-slice gadoxetic acid-enhanced hepatobiliary MR imaging using a newly developed three-dimensional fast spoiled gradient-echo sequence.	Magn Reson Imaging. 2016 May; 34(4): 545–51	Original Article
298	Ono Y, Osuga K, Takura T, et al.	放射線診断・IVR科	Cost-Effectiveness Analysis of Percutaneous Sclerotherapy for Venous Malformations.	J Vasc Interv Radiol. 2016 Jun; 27(6): 831–7	Original Article

299	Osuga K, Nakajima Y, Sone M, et al.	放射線診断・IVR科	Transarterial embolization of hypervascular tumors using trisacryl gelatin microspheres (Embosphere): a prospective multicenter clinical trial in Japan.	Jpn J Radiol. 2016 May; 34(5): 366-375	Original Article
300	Isohashi F, Mabuchi S, Akino Y, et al.	放射線治療科	Dose-volume analysis of predictors for chronic gastrointestinal complications in patients with cervical cancer treated with postoperative concurrent chemotherapy and whole-pelvic radiation therapy.	J Radiat Res. 2016 Nov; 668-676.	Original Article
301	Kurosu K, Sumida I, Mizuno H et al.	大阪大学医学部附属病院	Curtailing patient-specific IMRT QA procedures from 2D dose error distribution.	J Radiat Res. 2016 Jun; 258-64.	Original Article
302	Murakami S, Verdonschot RG, Kakimoto N, et al.	大阪大学歯学部	Preventing Complications from High-Dose Rate Brachytherapy when Treating Mobile Tongue Cancer via the Application of a Modular Lead-Lined Spacer.	PLoS One. 2016 Apr 29; e0154226	Original Article
303	Otani K, Teshima T, Ito Y, et al.	放射線治療科	Risk factors for vertebral compression fractures in preoperative chemoradiotherapy with gemcitabine for pancreatic cancer.	Radiother Oncol. 2016 Mar; 424-9	Original Article
304	Otani K, Naito Y, Sakaguchi Y, et al.	放射線治療科	Cell-cycle-controlled radiation therapy was effective for treating a murine malignant melanoma cell line in vitro and in vivo	Sci Rep. 2016 Aug 2; 30689.	Original Article

305	Seo Y, Tamari K, Yoshioka Y, et al.	放射線治療科	Characterization of in vitro radiosensitization in mammalian cells using biomathematical modelling: implications for hypofractionated radiotherapy with a combined modality.	Br J Radiol. 2016 Jun; 20150724.	Original Article
306	Sumida I, Yamaguchi H, Das IJ, et al.	放射線治療学	Evaluation of the radiobiological gamma index with motion interplay in tangential IMRT breast treatment.	J Radiat Res J Radiat Res. 2016 Nov; 691-701	Original Article
307	Sumida I, Shioiri H, Higashinaka N, et al.	放射線治療学	Evaluation of tracking accuracy of the CyberKnife system using a webcam and printed calibrated grid.	J Appl Clin Med Phys. 2016 Mar 8; 74-84	Original Article
308	Sumida I, Yamaguchi H, Das IJ, et al.	放射線治療学	Intensity-modulated radiation therapy dose verification using fluence and portal imaging device.	J Appl Clin Med Phys. 2016 Jan 8; 259-271	Original Article
309	Yoshioka Y, Suzuki O, Isohashi F, et al.	放射線治療科	High-dose-rate brachytherapy as monotherapy for intermediate- and high-risk prostate cancer: Clinical results for a median 8-year follow-up.	Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2016 Mar 15; 675-82	Original Article
310	Isohashi K, Shimosegawa E, Naka S, et al.	核医学診療科	Comparison of the image-derived radioactivity and blood-sample radioactivity for estimating the clinical indicators of the efficacy of boron neutron capture therapy (BNCT): 4-borono-2-18F-fluoro-phenylalanine (FBPA) PET study.	EJNMMI Res. 2016 Dec;6(1):75.	Original Article

311	Inoue, N., Watanabe, M., Ishido, N., et al	大阪大学医学部附属病院医療技術部検査部門	Involvement of genes encoding apoptosis regulatory factors (FAS, FASL, TRAIL, BCL2, TNFR1 and TNFR2) in the pathogenesis of autoimmune thyroid disease	Human immunology. 2016; 77(10): 944-51	Original Article
312	Watanabe, M., Honda, C., The Osaka Twin Research Group, et al	大阪大学医学部附属病院臨床検査部	Within-pair differences of DNA methylation levels between monozygotic twins are different between male and female pairs	BMC Medical Genomics. 2016; 9: 55-63	Original Article
313	Maki Sasano, Shigeki Kimura, Ikuhiro Maeda, et al	大阪大学医学部附属病院医療技術部検査部門	Analytical performance evaluation of the Elecsys® Cyclosporine and Elecsys® Tacrolimus assays on the cobas e411 analyzer	Practical Laboratory Medicine. 2017; August: 10-17	Original Article
314	Irisawa T, Vadéboncoeur TF, Karamooz M, et al	高度救命救急センター	Duration of Coma in Out-of-Hospital Cardiac Arrest Survivors Treated With Targeted Temperature Management	Annals of Emergency Medicine. 2017 Jan; 69(1):36-43	Original Article
315	Kentaro Shimizu and Hiroshi Ogura	高度救命救急センター	Is the 77.1% rate of in-hospital mortality in patients receiving venoarterial extracorporeal membrane oxygenation really that high?	Critical Care .2016 Jul ; 20 (オンライン)	Letter
316	Yusuke Katayama, Tetsuhisa Kitamura, Kosuke Kiyohara, et al.	高度救命救急センター	Factors associated with the difficulty in hospital acceptance at the scene by emergency medical service personnel: a population-based study in Osaka City, Japan	BMJ Open. 2016 Oct;6 (オンライン)	Original Article

317	Yamamoto N, Kawahara R, Akeda Y, et al.	感染制御部	Development of selective medium for IMP-type carbapenemase-producing Enterobacteriaceae in stool specimens.	BMC Infect Dis. 2017 Mar 24;17(1):229. doi: 10.1186/s12879-017-2312-1.	Original Article
318	Toru Shirakawa, Hiroyasu Iso, Kazumasa Yamagishi, et al.	大阪大学大学院医学系研究 科社会医学講座公衆衛生学 教室	Watching Television and Risk of Mortality From Pulmonary Embolism Among Japanese Men and Women: The JACC Study (Japan Collaborative Cohort)	Circulation. 2016 July; 134: 355-357	Letter
319	Toru Shirakawa, Hiroyasu Iso	大阪大学大学院医学系研究 科社会医学講座公衆衛生学 教室	Response by Shirakawa and Iso to Letter Regarding Article, "Watching Television and Risk of Mortality From Pulmonary Embolism Among Japanese Men and Women: The JACC Study (Japan Collaborative Cohort)"	Circulation. 2016 November; 134: e501- e502	Letter
320	Tomoya Yamamoto Masahito Naito Shinsuke Hara et al.	大阪大学医学部附属病院 薬剤部	The effect of aprepitant and dexamethasone combination on paclitaxel-induced hypersensitivity reaction	European Journal of Gynaecological Oncology. 2016 Jun; 37: 833-836	Original Article
321	Masahito Naito Tomoya Yamamoto Shinsuke Hara et al.	大阪大学医学部附属病院 薬剤部	Hemoglobin Value Is the Most Important Factor in the Development of Hand-Foot Syndrome under the Capecitabine Regimen	Chemotherapy. 2017 Jan; 62: 23-29	Original Article
322	Kuniko Hagiwara, Natsuko Seto, Yasuko Shimizu, et al.	移植医療部	Involvement of Recipient Transplant Coordinators in Transplant Outpatient Clinics in Japan: Current Status and Transplant Physician's Thoughts on Follow-up Clinics	Progress in Transplantation. 2017 Jan; 27(1): 45-52	Original Article

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

計323件

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限ること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet alとする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない);卷数:該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Koh S, Ikeda C, Fujimoto H, et al.	大阪大学眼科	Regional Differences in Tear Film Stability and Meibomian Glands in Patients With Aqueous-Deficient Dry Eye	Eye Contact Lens 2016July ;42(4):250-5	Original Article
2	Miki A, Kawashima R, Usui S, et al.	大阪大学眼科	Treatment Outcomes and Prognostic Factors of Selective Laser Trabeculoplasty for Open-angle Glaucoma Receiving Maximal-tolerable Medical Therapy	J Glaucoma 2016 Oct ;25(10):785-9	Original Article
3	Oie Y, Watanabe S, Nishida K, et al.	大阪大学眼科	Evaluation of Visual Quality in Patients With Fuchs Endothelial Corneal Dystrophy	Cornea 2016 Nov;35 Suppl 1:S55-S8.	Review
4	Nishida K, Sakaguchi H, Kamei M, et al.	大阪大学眼科	Simulation of panretinal laser photocoagulation using geometric methods for calculating the photocoagulation	Eur J Ophthalmol 2017Mar ;27(2):205-9	Original Article
5	Oie Y, Nishida K.	大阪大学眼科	Triple procedure: cataract extraction, intraocular lens implantation, and corneal graft	Curr Opin Ophthalmol 2017 Jan;28(1):63-6	Review
6	Miki A, Maeda N, Ikuno Y, et al.	大阪大学眼科	Factors Associated With Corneal Deformation Responses Measured With a Dynamic Scheimpflug Analyzer	Invest Ophthalmol Vis Sci 2017 Jan;58(1):538-44	Original Article

7	Yamamoto S, Ohta N, Matsumoto A, et al.	麻醉科	Haloperidol suppresses NF- kappaB to inhibit lipopolysaccharide- induced pro- inflammatory response in RAW 264	Med Sci Monit, 2016 Feb; 22:367-372.	Original Article
8	Maeda A, Shibata SC, Wada H, et al.	麻醉科	The efficacy of continuous subcostal transversus abdominis plane block for analgesia after living liver donation: a retrospective study	Journal of Anesthesia, 2016 Feb; 30: 39-46.	Original Article
9	Matsumoto Y, Imada T, Shibata SC, et al.	麻醉科	Anesthetic management of a patient with a biventricular assist device who was scheduled for aortic and pulmonary valve	J Cardiothorac Vasc Anesth, 2016 Jun; 30:733- 735.	Case report
10	Okitsu K, Iritakenishi T, Iwasaki M, et al.	麻醉科	Paravertebral block decreases opioid administration without causing hypotension during transapical transcatheter aortic valve implantation.	Heart & Vessels, 2016 Sep; 31: 1484-1490.	Original Article
11	Shibata SC, Uchiyama A, Ohta N, et al.	麻醉科	Efficacy and safety of landiolol compared to amiodarone for the management of postoperative atrial fibrillation in intensive care	J Cardiothorac Vasc Anesth, 2016 Apr 30: 418-422.	Original Article
12	Iura A, Takahashi A, Hakata S, et al.	麻醉科	Reductions in tonic GABAergic current in substantia gelatinosa neurons and GABAA receptor δ subunit expression after chronic constriction injury of the sciatic nerve in mice.	European J Pain, 2016 Nov; 20: 1678-1688.	Original Article
13	Yamada K, Adachi T, Mibu A, et al.	麻醉科	Injustice Experience Questionnaire, Japanese Version: Cross-Cultural Factor-Structure Comparison and Demographics Associated with Perceived Injustice.	PLoS One, 2016 Aug 3; 11(8): e0160567.	Original Article
14	Inoue R, Sumitani M, Yasuda T, et al.	麻醉科	Independent Risk Factors for Positive and Negative Symptoms in Patients with Diabetic Polyneuropathy.	J Pain Palliat Care Pharmacother, 2016 Sep 30: 178-183.	Original Article

15	Yamada K, Yuan J, Mano T, et al.	麻酔科	Arthropathy-related pain in a patient with congenital impairment of pain sensation due to hereditary sensory and autonomic neuropathy type II with a rare mutation in the WNK1/HSN2 gene: a case report.	BMC Neurol, 2016 Oct; 16, 201.	Case report
16	Nakanishi M, Nakae A, Kishida Y, et al.	麻酔科	Go-sha-jinki-Gan (GJG) ameliorates allodynia in chronic constriction injury-model mice via suppression of TNF-alpha expression in the spinal cord.	Mol Pain, 2016 Jun, pii: 1744806916656382.	Original Article

計16件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> 手順書の主な内容 大阪大学医学部附属病院における倫理審査委員会標準業務手順、倫理審査委員会の運営に必要な手続き等を定めている。 	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年13回（未来） 年12回（介入） 年12回（観察）

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
 2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適當な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> 規定の主な内容 審議事項、組織、手続き、指導及び勧告 	
③ 利益相反を審査し、適當な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年6回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年14回
●臨床研究講習会 基礎編：1 未来医療開発部の役割と活動 2 治験について 3 CRCの支援について 4 「人を対象とする医学系研究」をはじめる前に知っておくべきこと 更新編：1 臨床試験研究計画での統計的留意点 2 新研究指針への対応 など 実施回数：年14回（基礎3回、更新3回、ビデオ4回、英語1回、臨時3回）	
(注) 前年度の実績を記載すること。	



(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

研修プログラムは、本院と地域の中核病院が緊密に連携したプログラムで、専門研修医が地域基幹病院を移動して研修することで、それぞれの病院が得意とする分野の相互補完が可能となり、幅広い知識や技術の習得を促進し、豊富な症例を経験できるようしている。

内科、外科領域は、内科認定医、外科専門医を取得して、さらにサブスペシャリティー（消化器病専門医、消化器外科専門医など）の専門医取得に継続するプログラムである。

なお、他の研修病院で専門医研修を行っている医師でも、将来阪大で専門研修、学位研究を希望する場合、適宜、本プログラムへの参加を認めている。

また、平成27年8月には、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担う病院として、医療法上の臨床研修中核病院に承認された。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	153人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
彦惣 俊吾	循環器内科	特任准教授	21年	
猪阪 善隆	腎臓内科	教授（科長）	29年	
巽 智秀	消化器内科	助教（医局長）	25年	
岩橋 博見	糖尿病・内分泌・代謝内科	寄附講座准教授	27年	
長友 泉	呼吸器内科	助教（外来医長）	21年	
橋崎 雅司	免疫内科	講師	30年	
柴山 浩彦	血液・腫瘍内科	講師（診療局長）	28年	
竹屋 泰	老年・高血圧内科	講師（病棟医長）	20年	
平 将生	心臓血管外科	助教	14年	
新谷 康	呼吸器外科	准教授（診療局長）	22年	
畠 泰司	消化器外科	講師（医局長）	20年	
鳴津 研三	乳腺・内分泌外科	講師（診療局長）	23年	
高間 勇一	小児生育外科	助教	15年	
若林 卓	眼科	助教	13年	
大崎 康宏	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	助教	18年	
田中 啓之	整形外科	講師	20年	
壽 順久	皮膚科	助教（副科長）	16年	
久保 盾貴	形成外科	准教授（副科長）	21年	
奥野 龍徳	神経内科・脳卒中科	講師（外来医長）	21年	
數井 裕光	神経科・精神科	講師（診療局長）	28年	
中村 元	脳神経外科	助教（診療局長）	18年	
入嵩西 翁	麻酔科	助教	17年	
味村 和哉	産科婦人科	准教授（副科長）	14年	
青天目 信	小児科	助教	18年	
福原慎一郎	泌尿器科	助教	17年	

本多 修	放射線診断・IVR科	講師	25年
磯橋 文明	放射線治療科	准教授（副科長）	29年
内山 昭則	集中治療部	准教授（副部長）	29年
池田純一郎	病理部	准教授（副部長）	15年
中神 太志	総合診療部	助教（副科長）	14年
小倉 康司	高度救命救急センター	准教授（副部長）	30年
日高 洋	臨床検査部	准教授	30年
渡部 直史	核医学診療科	助教	13年
菅本 一臣	リハビリテーション科	寄附講座教授	35年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

1. 大阪大学臨床栄養研究会 (CNC)

臨床栄養に関するテーマ

毎月1回(8月以外)

平成28年度のべ600人程度

2. 栄養マネジメント部研修会(食事・栄養に関するテーマ)

体組成分析装置 (2016/4/21) 7名

小児の栄養管理 (2016/5/23) 5名

経腸栄養剤の衛生管理 (2016/6/30) 7名

輸液の医療機材 (2016/7/29) 8名

グルタミン製剤 (2016/8/25) 7名

経腸栄養と静脈栄養について (2016/9/13) 8名

IBDと成分栄養剤 (2016/10/25) 7名

シールド乳酸菌 (2016/12/21) 7名

医療現場でのプロバイオティクスの応用 (2017/2/20) 7名

3. NST院内研修会 (栄養管理に関するテーマ)

NSTについて (2016/6) 15名程度

経腸栄養について (2017/1) 30名程度

4. 国公私立大学医療技術関係職員研修 (栄養士)

3日間 (2016/10/5-2016/10/7) 1回/年 1名

5. その他研修会 (食品衛生講習会、吹田保健所管内集団給食研究会、特定給食講演会など)

年数回各数名

6. 阪大GCPセミナー

内容：治験を実施するための基礎的知識の習得を目的とするとともに、治験の現状と問題点、今後の方向性について内部、外部の講師が体系的に解説・説明する

期間・回数：平成28年度実績

平成28年4月～平成29年3月 全9回

17:30～19:00 (75分の講演と15分間の質疑応答)

参加人数：延べ355人（院内 院外）（平均39人/回）

7. 阪大臨床研究講習会

研修の主な内容：

基礎編：1 未来医療開発部の役割と活動

2 治験について

3 CRCの支援について

- 4 「人を対象とする医学系研究」をはじめる前に知っておくべきこと
更新編：1 臨床試験研究計画での統計的留意点
2 新研究指針への対応
など

実施回数：年14回（基礎3回、更新3回、ビデオ4回、英語1回、臨時3回）

参加人数：2102名（医師含む）

8. 阪大モニタリング講習会

研修の主な内容：モニタリングに従事する者、実施する者へのモニタリング講習

基本：モニタリングの基本、直接閲覧（演習）

更新：モニタリングの流れと研究実施時の留意点、逸脱について、モニタリング事例紹介

専門：モニタリングの実務

実施回数：平成28年度実績 座学3回、e-learning（いずれも90分）

参加人数：862名（院内 院外）

9. アカデミア臨床開発セミナー

研修の主な内容：アカデミア発の医療技術の創出・国際共同臨床研究をめざし、開発に必要な知識を習得し、実用に応じた理解を深めることを目的とし、各専門分野のリーダーによるセミナーを開催

研修の期間・実施回数：年10回程度

研修の参加人数：40～80名程度（ただし医師も含む）

10. 目標管理・スケジュール講習会

研修の期間・実施回数：4/7, 10/27, 11/17, 3/3（4回）

研修の参加人数：412人

11. 疾患別統合勉強会

研修の期間・実施回数：7/21, 12/8（2回）

研修の参加人数：224人

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

1. 研修の主な内容：医療機関に所属し、治験・臨床研究のデータ管理業務に携わっている者、及び今後携わる予定の者を対象に、データ管理の意義・目的・臨床研究に関する基礎知識や技能について体系的に学び、データマネジメントおよび品質管理システムについて理解できるようにする。

研修の期間・実施回数：東京 2016年12月17日～2016年12月18日

大阪 2017年1月21日～2017年1月22日

研修の参加人数：50名×2回

2. 研修の主な内容	AED研修、患者動作介助研修、医療安全講習、MRI安全管理講習会		
・研修の期間・実施回数	5/24	6/22	9/15 6/7～10 : 計7回
・研修の参加人数	69人	40人	119人 116人 : 計344人

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

1. 摂南大学薬学部学生インターンシップ

内容：講義、関連施設見学、CRC業務の実際：CRC同行（OJT）、

ロールプレイング：インフォームドコンセント、報告会

期間・回数：2016年8月8日（月）～10日（水）：9時00分～17時00分、3日間

2. 阪大GCPセミナー

内容：治験を実施するための基礎的知識の習得を目的とするとともに、治験の現状と問題点、今後の方向性について内部、外部の講師が体系的に解説・説明する

期間・回数：平成28年度実績

平成28年4月～平成29年3月 全9回

17:30～19:00（75分の講演と15分間の質疑応答）

参加人数：延べ355人（院内 院外）（平均39人/回）

3. 阪大臨床研究講習会

研修の主な内容：

基礎編：1 未来医療開発部の役割と活動

2 治験について

3 CRCの支援について

4 「人を対象とする医学系研究」をはじめる前に知っておくべきこと

更新編：1 臨床試験研究計画での統計的留意点

2 新研究指針への対応

など

実施回数：年14回（基礎3回、更新3回、ビデオ4回、英語1回、臨時3回）

参加人数：2102名（医師含む）

4. 阪大モニタリング講習会

①研修の主な内容：モニタリングに従事する者、実施する者へのモニタリング講習（学内開催）

基本：モニタリングの基本、直接閲覧（演習）

更新：モニタリングの流れと研究実施時の留意点、逸脱について、モニタリング事例紹介

専門：モニタリングの実務

実施回数：平成28年度実績 座学3回、e-learning（いずれも90分）

参加人数：862名（院内 院外）

②研修の主な内容：モニタリングに従事する者、実施する者へのモニタリング講習（学外開催）

1. 東北大学病院「第4回 教育セミナー」

モニタリングの基本/実務

2. 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立成人病センター「平成28年度 第1回 臨床研究センター院内セミナー モニタリング講習①」

モニタリングの基本、直接閲覧（演習）

3. 京都府立医科大学「倫理委員会向け講習」（委員対象）

モニタリングの基本/実務

4. 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立成人病センター「平成28年度 第1回 臨床研究センター院内セミナー モニタリング講習②」

モニタリングの実務

5. 近畿大学医学部附属病院 第8回 臨床研究セミナー「モニタリングって何？～人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に対応したモニタリングの基本～」

モニタリングの基本/実務、直接閲覧（演習）

6. 大阪医科大学附属病院 モニタリング講習～臨床研究・治験を巡る様々な環境の変化～

モニタリングの基本/実務

7. 京都府立医科大学附属病院 モニタリング講習
モニタリングの基本/実務
8. 京都府立医科大学附属病院 モニタリング演習
直接閲覧（演習）
実施回数：平成28年度実績 座学8回（90分）
参加人数：622名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 野口 眞三郎
管理担当者氏名	総務課長 久保 公四郎 医事課長 西川 憲司 薬剤部長 三輪 芳弘 放射線部長 富山 憲幸

規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	診療に関する諸記録	病院日誌	保管場所	管 理 方 法
		各科診療日誌	各診療科	カルテ等病歴資料は、1患者1カルテとし、コンピュータによる集中管理を行っている。 エックス線写真は、PACS(画像サーバ)で集中保管。
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	手術部	
		看護記録	看護部	
		検査所見記録	医事課	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	医事課	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課	
				◆診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱い 開示請求に基づき、診療記録のコピーを患者等に渡す場合は、患者からの請求に応じ、定められた手順に則り、当該患者の情報のみを印刷し渡すこととしている。 電子カルテを病院外から閲覧することは基本的にはできないが、治験における治験依頼者による原資料の確認の際に、当該患者の記録のみ、患者の同意を得た上で、病院が提供する端末を用いて病院外の指定する場所から閲覧することを許可している。また、セキュアなネットワークを引いた一部の医療機関に対して、その医療機関と当院が共同して診療に当たっている患者について、患者の同意が得られた場合に、診療記録の一部の閲覧を可能としている。
規則第三十二条の二に掲げる事項	病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	

に規則 掲げる事項 第一条の十一第一項	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	中央クリティカルマネジメント部 医事課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況	中央クリティカルマネジメント部 医事課	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課 感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要な未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療技術部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療技術部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療技術部	
		医療機器の安全使用のために必要な情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	医療技術部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録 規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部 総務課	
	医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
	医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課	
	診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課	
	医療安全管理部門の設置状況	中央クリティカルマネジメント部 医事課	
	高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課	
	未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課	
	監査委員会の設置状況	総務課	
	入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	中央クリティカルマネジメント部 医事課	
	他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	
	医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課	
	職員研修の実施状況	医事課	
	管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	総務課長 久保 公四郎		
閲覧担当者氏名	総務課庶務係長 山上 徹		
閲覧の求めに応じる場所	総務課庶務係		
閲覧の手続の概要	閲覧への希望が庶務係にあった場合に対応。		

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前 年 度 の 総 閲 覧 件 数	延	0	件
閲 覧 者 別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地 方 公 共 団 体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。



z (様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容 :1. 患者中心の医療の実践2. 診療情報の共有3. 医療安全に関する組織的取り組み4. インシデントの報告5. 機能する医療事故防止対策6. 適切な医療事故への対応7. 患者からの医療相談の実施8. 医療安全情報の共有9. 職員に対する教育研修10. 医療安全文化の構築11. 医療安全管理マニュアルの作成・更新12. 医療安全管理に関する指針の公開	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有・無)・ 開催状況 : 年 33 回・ 活動の主な内容 :・ 統括医療安全管理委員会 : 本院における医療に係る安全管理について統括する 年 11 回・ リスクマネジメント委員会 : 医療事故の防止策を策定する 年 6 回・ 医療クオリティ審議委員会 : 医療の質の向上を図る 年 15 回・ 医療事故対策委員会 : 医療事故が発生した場合の必要な対応を行う 年 1 回	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 8 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容 :・ 医療安全のための注意点・ ノンテクニカルスキルを使ってチーム力をあげよう !・ 高齢入院患者への医療安全上の注意・ 特定機能病院の承認要件見直しについて・ AED と除細動器の機能とその効率的な運用について・ 副作用登録システムについて・ Relationship - based Care for better Safety and Quality (患者 - 医療者関係に根ざした安全で質の高い医療の実現) 」・ わかりやすい病状説明と記録のあり方	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有・無)・ その他の改善の方策の主な内容 :	
問題点の把握状況 (方法)	
【各部署】	

- ・インシデントをインターネット（インシデントレポート、医療クオリティ審議依頼書）から報告（原則として当事者）するとともに、部署リスクマネジャーへ報告する。

【リスクマネジメント委員会】

- ・インシデントレポートのモニタリング（毎日・当番制、要IDとパスワード）

【医療クオリティ審議委員会】

- ・医療クオリティ審議依頼書への報告内容の把握

【中央クオリティマネジメント部】

- ・専任リスクマネジャーによりインシデントレポートのモニターや報告された医療クオリティ審議依頼書の内容をもとに、事例に関する問い合わせ、現場の確認

問題点の分析状況（方法）

【各部署・部門等】

- ・当該部署、部門等にて事例の根本原因を分析

【リスクマネジメント委員会】

- ・当番委員によりインシデントの根本原因を分析

【医療クオリティ審議委員会】

- ・委員会において、医療クオリティ審議依頼書、報告者からのヒアリング、及び委員からの意見をもとにインシデントの根本原因を分析

【中央クオリティマネジメント部】

- ・専任リスクマネジャーによりインシデントの根本原因を分析

改善策の検討状況（方法）

【各部署・部門等】

- ・当該部署、部門等にてリスクマネジャーもしくは医療安全担当者が中心となり、改善策等を検討。必要に応じ、専任リスクマネジャーが介入。

【リスクマネジメント委員会】

- ・インシデントの要旨と根本原因分析に基づいた再発防止策を提示
- ・事故防止策について意見交換、事故防止策を承認
- ・院内の他の委員会や他部門への検討や改善の申し入れ

【医療クオリティ審議委員会】

- ・審議依頼事例について、関係診療科・部門への再発防止策の検討や改善を指示

- ・各診療科・部門から提出された再発防止策について承認

【中央クオリティマネジメント部】

- ・専任リスクマネジャーによるインシデントに関する問い合わせ、現場の点検、改善の支援

- ・事故防止策を実行するために必要な業務の実施、他部門との連携協力

- ・リスクマネジャーメーリングリストによる情報提供

- ・院内ラウンド、院内相互チェックの実施計画

- ・リスクマネジャー会議（運営部会）の開催

- ・教育のための教材を作成・教育の実施

- ・リスクマネジメントニュースの作成・発行（警鐘事例等の共有）

- ・QM（クオリティマネジメント）ニュース（医療安全広報誌）の作成・発行

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有・無)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容 : ・ 院内感染対策に関する基本的な考え方 ・ 院内感染対策に関する組織的な取り組み ・ 感染制御部の設置と目的 ・ 院内感染対策の対象者 ・ 院内感染対策の内容 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容 : <p>感染対策委員会 :</p> <p>①院内感染症の届出状況や抗菌薬の使用状況等の報告 ②院内感染対策についての審議 (感染対策の重要事項に関すること、必要に応じての指導助言に関すること、院内感染防止対策の施設基準に関すること等)</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 27 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容 : ・ 全職員対象 : 2回/年 院内環境対策 感染症対策 ・ 対象別教育 新採用者(医師、研修医、看護師) - 院内感染対策の基本についての講義と演習 部署単位での勉強会 - 耐性菌対策、抗菌薬の適正使用など部署の問題に応じた内容 外部委託業者(清掃員、洗浄員、受付、メッセージヤーなど) インフルエンザ対策 ・ 役割別教育 : 感染管理リンクナース会議の中での教育的活動 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善の方策の主な内容 : <ul style="list-style-type: none"> ○ 耐性菌サーベイランス、デバイスサーベイランス等のサーベイランスデータを元に 対象部署に介入を行い感染対策の改善を図っている 耐性菌サーベイランスを元にした介入 (MRSA、MDRP、ESBL産生株など) デバイスサーベイランス実施部署 : ICU (BSI、UTI、VAP) 救命救急センター (BSI、UTI) ○ 手術部位感染サーベイランス 実施部署 : 消化器外科 (SSI) ○ 薬剤部からのデータを元に抗菌薬適正使用にむけての介入を行っている 8日以上の継続使用には、抗菌薬継続使用届の追加届出を必要とする 対象患者のリストアップは専任薬剤師によって行う ○ 専従の医師により、感染症治療コンサルテーションを受け、抗菌薬適正治療を促進している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有・無)
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 8回
・ 研修の主な内容：	
28年度の講習会実施実績	
・ 6月16日 第1回医薬品安全講習会（阪大病院フォーラム） 「規制医薬品の安全管理～麻薬を中心に～」 参加者数 110名	
・ 10月20日 第2回医薬品安全講習会（阪大病院フォーラム） 「病棟薬剤業務～簡易懸濁法と持参薬確認について～」 参加者数 104名	
・ 11月28日 医薬品安全管理講習会（リスクマネジメント・感染対策講習会と共に） 「副作用登録システムについて」 参加者数 319名	
・ 12月15日 同上 参加者数 150名	
・ 12月16日 同上 参加者数 101名	
・ 12月21日 同上 参加者数 108名	
e-Learning 同上 参加者数 2198名	
・ 2月9日 第3回医薬品安全講習会（阪大病院フォーラム） 「入院調剤室からのメッセージ～処方オーダーを安全に取り扱うために～」 参加者数 77名	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無)	
・ 業務の主な内容：	
・ 医薬品安全業務手順書の策定・見直し ・ 従業者に対する医薬品安全使用のための研修企画・実施 ・ 業務手順書に基づく業務実施の確認・記録 ・ 医薬品の安全使用のための情報収集その他改善方策	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)	
・ その他の改善の方策の主な内容：	
・ 重要安全情報の発信（委員および各部署医薬品安全管理者に速報） ・ 医薬品・医療機器等安全性情報（厚労省）No.332～341速報及び配布 ・ PMDA・製薬企業からの医薬品適正使用のお願い等の速報及び配布 ・ 医薬品安全関連情報、院内副作用情報の院内HP上の提供 ・ 院内HP上の情報提供（配合降圧剤の成分一覧表、配合糖尿病治療薬の成分一覧表、配合点眼薬の成分一覧表） ・ 院内医薬品集追補の発行 ・ ハイリスク薬表改訂、処方オーダー入力ガイド改訂	

- ・薬品マスタ設定の変更による安全対策
- ・薬袋（自動錠剤機用）レイアウト変更による配薬確認業務の安全対策を実施
- ・未承認新規医薬品等診療審査部にて承認された医薬品等の情報の収集
- ・調剤師による持参薬確認時や調剤時等に把握できた適応外・禁忌等に該当する処方に関する情報の収集

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有・無)
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 254回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>新しい医療機器の導入時の研修：152回 特定機能病院における定期研修（特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる機器の研修） 　：102回 　・ 医療機器安全管理講習会 　・ 医療機器・医薬品安全講習会 　・ 医療機器安全使用研修 　・ MRI装置の安全管理講習会 　・ 医療技術部医療安全研修（AED研修を含む） 　・ 部署研修（人工心肺・補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置）</p>	
<p>③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況</p> <p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) 　・ 保守点検の主な内容：</p> <p>人工心肺・補助循環装置：40台 人工呼吸器：128台 血液浄化装置：52台 除細動器：56台 閉鎖式保育器：9台 診療用高エネルギー放射線発生装置：142台</p>	
<p>④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況</p> <p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) 　・ その他の改善の方策の主な内容：</p> <p>医療機器に対する安全使用研修の必要性を院内のリスクマネージャを対象とした会議や職員を対象とした医薬品・医療機器安全管理講習会で広報 各診療科と病棟に医療機器安全管理責任者名で研修様式を配布し啓発 院内に納入される医療機器について納入業者から機器納入実績を医療機器安全管理責任者に報告するシステムの継続運用</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第9条の23第1項第1号から第15号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none">・責任者の資格（医師・歯科医師）・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況	
<p>本院における医療に係る安全管理について総括するため、総括医療安全管理委員会を設置しており、医療安全担当の副病院長（医療安全管理責任者）が同委員会の委員長となっている。同委員会にリスクマネジメント委員会及び医療クオリティ審議委員会（医療安全管理部門である中央クオリティマネジメント部が主管）、医薬品安全管理委員会（医薬品安全管理責任者である薬剤部長が委員長）、医療機器安全管理委員会（医療機器安全管理責任者である医療技術部長が委員長）を置き、総括医療安全管理委員会委員長（医療安全管理責任者）が統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (8名)・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況	
<p>医薬品に関する情報の整理については、薬品情報管理室に担当者を設置し、月に1回程度、医薬品の使用状況を確認し、医薬品安全管理責任者に報告、必要に応じて院内への周知を実施。</p>	
<ul style="list-style-type: none">・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況	
<p>平成28年9月には、未承認新規医薬品等の採用・購入に関する項目を追記した。また、平成29年3月には、未承認等の医薬品の使用（未承認医薬品の使用、適応外使用、禁忌での使用）の情報の収集・管理およびその情報提供と周知に関する項目を追記した。</p>	
<p>担当する中央診療施設として、平成29年3月1日付で「未承認新規医薬品等診療審査部」を新設、平成29年3月21日より運用を開始した。「未承認新規医薬品等診療審査部」の担当窓口は薬剤部薬品情報管理室とし、未承認新規医薬品、医療材料、高度管理医療機器、適応外、禁忌等に関するこ^トについては、「未承認新規医薬品等診療審査部」に申請を行う。また、薬剤師による持参薬確認時や調剤時等に把握できた適応外・禁忌等に該当する処方に関する情報を共有ファイルにて収集・管理する。適応外・禁忌等に該当する処方に関する情報について、必要に応じて、病棟薬剤師や調剤室・薬品情報管理室の薬剤師より、処方した医師等に対して処方の必要性やリスク検討の有無、処方の妥当性等を確認し、指導を行う。場合によっては、未承認新規医薬品等診療審査部への申請を促す。未承認新規医薬品等診療審査部で承認されたものについては、病院運営会議にて未承認新規医薬品等診療審査部部長から病院長に報告される。</p>	
<ul style="list-style-type: none">・担当者の指名の有無 (有)・無)	

・担当者の所属・職種：

(所属：薬剤部，職種 副薬剤部長 3名)

(所属：薬剤部（薬品情報管理室），職種 室長・薬剤主任 1名)

(所属：薬剤部・中央クオリティマネジメント部，職種 薬剤師 1名)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
-----------------------------	-----

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容
：定期的に各診療科・各中央診療施設のインフォームド・コンセントの実施状況を確認する。
適切でない事例が認められる場合は、必要な指導を行うとともに、当該事例を院内に周知する。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
-----------------------	-----

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

病歴管理委員長が診療録管理の責任者であり、診療情報管理士が中心となって、診療記録の記載内容の確認と管理を行っている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
-----------------	-----

・所属職員：専従(7)名、専任(1)名、兼任(7)名

うち医師：専従(3)名、専任(1)名、兼任()名

うち薬剤師：専従(1)名、専任()名、兼任(1)名

うち看護師：専従(3)名、専任()名、兼任(1)名

(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

1. インシデントの調査・分析・レポート管理
2. 医療事故防止方策の検討・実施・評価
3. リスクマネジャー会議の開催
4. 職員研修の企画・実施
5. 医療安全推進及び教育のための教材の開発・活用
6. 現場のリスクマネジャー支援
7. 他の委員会や部署、各職種間の連絡調整
8. リスクマネジメント委員会等の開催準備及び支援
9. 医療事故後の患者及び家族等への対応支援等
10. 全死亡症例の把握・検証

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無 (有・無)

- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・ 無）
- ・活動の主な内容：

診療科長から高難度新規医療技術を用いた診療の提供の申請が行われた場合、申請内容の確認を行うとともに、高難度新規医療技術評価委員会に、当該高難度新規医療技術を用いた診療の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求め、その意見を踏まえ適否を決定する。

また定期的及び術後に患者が死亡した場合など必要に応じて当該医療の提供が適正な手続きで行われていたか、診療録等の確認や従事者の遵守状況の確認を行い、病院長に報告する。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・ 無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・ 無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・ 無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・ 無）
- ・活動の主な内容：

業務内容としては、診療科長から未承認新規医薬品等を用いた診療の提供の申請が行われた場合、申請内容の確認をするとともに、未承認新規医薬品等診療評価委員会に、当該未承認新規医薬品等を用いた診療の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求め、その意見を踏まえ適否を決定する。

また定期的及び術後に患者が死亡した場合など必要に応じて当該医療の提供が適正な手続きで行われていたか、診療録等の確認や従事者の遵守状況の確認を行い、病院長に報告する。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・ 無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ 有・ 無）

⑨ 監査委員会の設置状況

有・ 無

- ・監査委員会の開催状況：年 2 回

- ・活動の主な内容：

- ①医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）に規定する医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について、病院長等から報告を求め、必要に応じて確認を実施すること。
- ②必要に応じ、総長又は病院長に対し、医療に係る安全管理について是正措置を講ずるよう意見を表明すること。
- ③業務の結果を公表すること。

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）※第2回開催後、公表予定

・委員名簿の公表の有無（有・無）

・委員の選定理由の公表の有無（有・無）

・公表の方法：

大阪大学ホームページにて公表

掲載 URL : http://www.osaka-u.ac.jp/ja/academics/univ_hospitals/tokutei

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
倉智 博久	大阪府立母子保健総合医療センター	○	大阪府立母子保健総合医療センターにおいて、総長として医療側・経営側の両知識を有する者として選定するもの	有・無	1
中村 京太	横浜市立大学附属市民総合医療センター		横浜市立大学附属市民総合医療センターにおいて、医療安全管理学の准教授として、医療安全管理の専門家として選定するもの	有・無	1
水島 幸子	水島綜合法律事務所		水島綜合法律事務所において、法律の専門家である上、医療に精通している者として選定するもの	有・無	1
山口 育子	認定NPO法人ささえあい医療人権センター COML		認定NPO法人ささえあい医療人権センター COMLにおいて、患者・医療者双方のコミュニケーション能力を高める活動等に取り組んでおり、患者目線で医療について助言できる者として選定するもの	有・無	2
鬼澤 佳弘	国立大学法人 大阪大学		本学における、リスク管理担当理事として選定するもの	有・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 91 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 24 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

【院内死亡症例】

院内死亡症例は全例、診療科内で検証され、その結果は院内死亡症例報告書に入力される。医療クオリティ審議委員会での検討が必要と判断されれば、医療クオリティ審議依頼書を提出する。また、診療科とは独立して中央クオリティマネジメント部でも毎週、多職種で全死亡症例を把握・検証している。診療科長および中央クオリティマネジメント部部長の確認結果を医療クオリティ審議委員会において医療安全管理責任者に報告する。医療安全管理責任者は病院運営会議において管理者に報告する。平成 28 年 9 月 20 日より運用を開始している。

【管理者が定める水準以上の事象】

平成 14 年から全国立大学医学部附属病院で使用している影響レベルのうちレベル 3b 以上は管理者が定める水準以上の事象として、月 1 回開催される医療クオリティ審議委員会において医療クオリティ審議依頼書で報告のあった事象の事実関係の調査・把握を行い、報告された事象が、医療事故か否かを判断する。また、日本医療機能評価機構、及び医療事故調査制度に伴う報告事例が審議する。その後、病院運営会議、統括医療安全管理委員会で報告される。

事故と判断された場合には、速やかに医療事故対策委員会を立ち上げて、患者や家族等及び医療事故を起こした当事者や部署に対して、必要な支援を行う。医療事故に関して、情報収集・統合、分析、意思決定、関係機関への報告、院内外への公表を行う。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名： ） 無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受け入れ（有（病院名： ） 無）
- ・技術的助言の実施状況

※本年 12 月までに実施予定。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者及びその家族からの医療に関する相談・ご意見に対して、その内容の迅速な解決のために適切な処理を行うことを目的とした患者相談室を設置している。病院長は、相談等の内容が本院の医療安全管理体制確保に有益であると認められるときは、関係部署及び関係委員会に対して検討及び改善を指示することができる。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有・ 無）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有・ 無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有・ 無）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

リスクマネジメント講習会にて、特定機能病院としての高度な医療を提供するために必要な知識について従来から研修を行っているが、特定機能病院承認要件の各項目に関する事項については昨年11月の講習会で全職員に対して説明を行った。また、監査委員会で指摘された事項に関する研修は、今後の監査委員会後の意見を見て行う予定である。

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

日本医療機能評価機構が実施する研修に今年度から参加させる予定である。

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

(様式第7)

専門性の高い対応を行うまでの取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	(有)・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期	
財団法人 日本医療機能評価機構 2016年6月24日	
一般財団法人 日本医療教育財団 2016年3月15日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	(有)・無
・情報発信の方法、内容等の概要	

平成24年度に本院公式ホームページをリニューアルして以降、内容の充実を図るとともに、見やすくわかりやすい情報提供を行っている。また、平成27年4月には、より見やすく伝わりやすい紙面をめざし、年4回発行する広報紙『阪大病院ニュース』をリニューアルし、大学病院としての本院の存在意義を一般社会に十分に理解してもらうよう努めている。今後も引き続き適切な情報発信を行う。

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	(有)・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	
本院では、対象となる疾患等に対し、関連診療科や診療部門並びに関連医師やコメディカルが連携し、包括的な診断及び治療を実現するため、中央診療施設として以下のセンターを配置し、複数の診療科が連携して対応に当たる体制を整えている。 ・脳卒中センター ・前立腺センター ・睡眠医療センター ・疼痛医療センター ・生殖医療センター ・ハートセンター ・小児医療センター ・オンコロジーセンター ・呼吸器センター	

- ・てんかんセンター
- ・消化器センター
- ・I V Rセンター
- ・胎児診断治療センター
- ・難病医療推進センター
- ・子どものこころの診療センター